

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県

自治体名：大分県

担当課名：教育庁体育保健課

電話番号：097-506-5639

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積6,340.76 km ²
人口	1,085,198 人
公立中学校数	124 校
公立中学校生徒数	28,102 人
部活動数	1,303 部
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

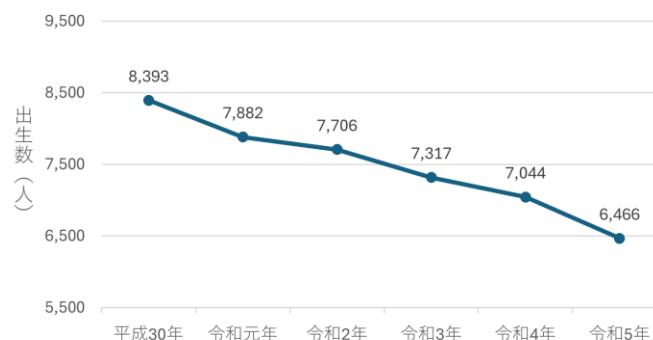
本県の出生数は減少傾向にあり、少子化に伴う生徒数の減少により、学校単位での部活動が難しい状況がみられることから、生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会の確保に早急に取り組む必要がある。

大分県では令和5年3月に「大分県の学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定し、休日の部活動について令和7年度末までに地域クラブ活動へと移行することを目指している。

県内の多くの市町村において、指導者人材及び受け皿団体の確保、学校施設の管理の問題などが課題として挙げられ、それぞれの地域の実情に応じて地域連携・地域移行に取り組んでいる。

県としては市町村担当者会議の開催による先進自治体の好事例・課題の共有や人材バンクの設置による指導者確保の支援、また独自の補助制度等を通して、県内の地域移行に向け取り組んでいるところである。

大分県 出生数の推移



【生徒数について】

今後も少子化が進行していく見込みであり、特に都市部以外での生徒数の大きな減少が予想されている。

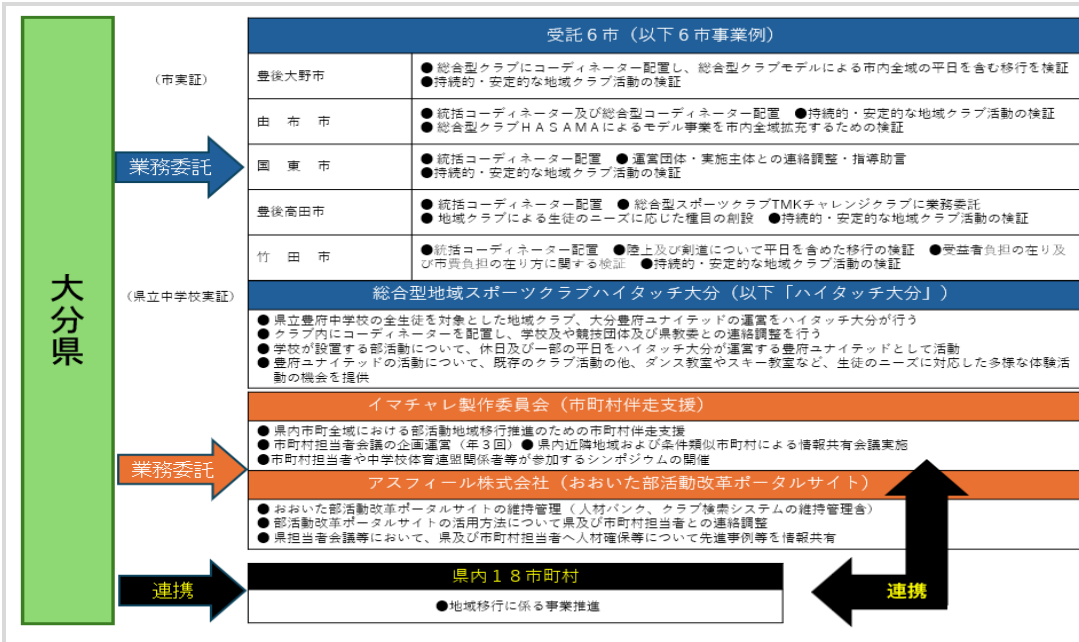
地域により人材等の資源に偏りがあるため、地域の実情に沿った取り組みを進めていく必要がある。

出典：人口動態統計（厚労省）を加工作成
※各年10月1日現在の数

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育改革・企画課－県教委としての現状認識と今後の方向性
- ・体育保健課－運動部の地域移行に関する取組全般
- ・文化課－文化部の地域移行に関する取組全般
- ・教育人事課－教職員の負担軽減及び兼職兼業の仕組み
- ・教育財務課－公立学校施設整備費補助金について
- その他の関わりについて、教育庁内P Tで情報共有、協議を行う

◎首長部局

- ・指導者・受け皿団体の確保に向けた取組
- ・総合型地域スポーツクラブへの協力依頼（クラブ訪問）

年間の事業スケジュール

令和6年4月	市町村教育長会議（進捗情報共有）
5月	市町村主管課長会議
6月	市町村訪問
7月	第1回担当者会議
8月	市町村訪問・県立中学打合せ
9月	市町村検討委員会視察 県立中学クラブ活動スタート
10月	人材バンクプロポーザル
11月	第2回担当者会議、庁内PT
12月	人材バンク開設（ポータルサイト） 市町村サポート
1月	シンポジウム開催
2月	市町村訪問、検討委員会視察
3月	事業完了報告

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ①県内5つの市と県立中学校1校において、それぞれの実情に応じた実証事業を行う。
- ②市町村担当国会議実施
(先進的事例等の情報の共有)
・市町村検討委員会等への訪問
- ③県立中学校においては、新たな地域クラブ
(大分豊府ユナイテッド)を立ち上げ、その運営をハイタッチ大分が行い、9月休日の部活動を段階的に地域クラブ活動に移行
・県立中学校の地域移行についてコーディネーターを配置(ハイタッチ大分)
- ④先進的な取り組み事例の視察

取組の成果

- ①実施5市においては、統括コーディネーターが学校や競技団体、総合型地域スポーツクラブなどと連絡調整や会議の運営等、移行推進に向けたと取組みを行うことができた。
- ②3回の担当国会議及びを通して、イマチャレ製作委員会による全国先進事例や県内実証実施自治体の情報提供、諸問題解決に向けたワークショップを実施したことにより、国や県の動向の確認、各市町村の現状や課題を把握することができた。
- ③9月から段階的に休日における地域クラブ活動を開始し、全8部活の休日の活動を移行する取り組みを開始できた。
・コーディネーターが生徒のニーズに応じた関係団体と連絡調整を行うことにより、リズムトレーニングやダンス等のエンジョイクラブ活動を開始することができた。
- ④兵庫県のシンポジウムに参加し、次年度の取組へつなげるための情報を収集することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 総合型地域スポーツクラブや競技団体との連絡調整
- 実施市における検討委員会の企画運営
- 学校及びPTAとの連絡調整

今後の課題と対応方針

- 大分県においては、市町村合併により広域市が多いため、旧町間の移行格差が生じないよう、コーディネーターの更なる連絡調整が必要。
- 県立中学校において、部活動改革に関する意識改革や受益者負担等を含め保護者への理解を深める場を設定する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

・県立中学校の地域クラブ活動活性化のため、コーディネーターによる指導者の掘り起こしを実施

・人材バンク・ポータルサイト設置及び周知

人材バンクの人数

28名

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	9名
30代	3名
40代	3名
50代	6名
60代以上	7名

登録者属性

職業

公務員、自営業、学生、
自営業、会社員 他

性別

男性6割、女性4割

種目

・野球
・陸上競技
・サッカー
・バレーボール
・ホッケー
・卓球
・スキー
・硬式テニス 他

資格有無

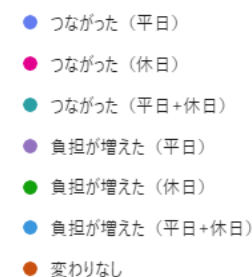
・サッカー協会公認
・スキー連盟正指導員
・日本スポーツ協会公認
スポーツ指導者
スタートコーチ
コーチ1
クラブマネジャー 等

取組の成果

○県立中学校における地域クラブ活動の指導者について、コーディネーターが関係団体等との連絡調整により、全8部活をクラブ活動にするための指導者掘り起こしに加え、全生徒を対象として生徒ニーズに対応したエンジョイクラブ活動を実施するための指導者の掘り起こしをすることができた。また、指導者の掘り起こしにより、教員の休日における業務負担軽減につながった。

○人材バンク・ポータルサイトについて、県スポーツ協会と連携してスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブへ周知するほか、県内各地に点在する金融機関や郵便局等から協力を得ることにより、より多くの県民に周知をすることができ、次年度以降の登録者増に向けた働きかけができた。

令和6年度に地域クラブ活動をスタートしましたが、業務の負担軽減につながったと感じていますか？



※県立中学校教員へのアンケートから抜粋

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○県全体で地域移行を推進するため、県教育委員会とエデュシップ（イマチャレ製作委員会）が連携して、合同研修会や個別相談会などの市町村サポートを行うことにより、県下全市町村における横展開の事業実施を図った。

○市町村担当者や各郡市中体連及び中文連関係者が参加するシンポジウムを開催。

取組の成果

○全国の先進事例及び県内各市町村の現状について、各市町村担当で情報共有することにより、各市町村における進捗状況の確認や令和7年度以降に必要な取組の確認ができた。

○個別相談等による市町村サポートでは、地域移行を進める上での問題や課題等を整理し、地域の現状に合わせた取組について考えることができた。

○各市町村担当者だけではなく、中体連及び中文連関係者が参加したシンポジウムにより、学校現場と行政が一体となって地域移行への必要性を再確認するとともに、県全体で推進するための機運の醸成を図ることができた。

参加者アンケートから

○他市の進捗状況や方向性はとても参考になりました。

○子供たちが健全な文化・スポーツ活動ができるよう、持続可能な体制づくりを構築するため、目的と手段を見失わないように心がけていきたい。

○子どものためであることを、関係者にしっかり伝えながら、早急に進めていく必要があると感じた。

○生徒のために、学校現場で取組み可能なことについて行動を開始する必要があると感じた。



今後の課題と対応方針

○多様な団体が参画し、更なる県全体での事業展開推進のために、連携範囲の拡大を図る。

○地域それぞれで異なる学校現場の状況について関係者全体で情報共有し、県全体での取組みを確認する新たな場を設定する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 豊後大野市において、朝地・清川・緒方のエリア、大野・千歳・犬飼のエリア、三重のエリアの3つを基本的なエリアとして設定。
- 児童・生徒アンケートを基に、R8年度の完全地域移行に向けて、12種目＋αの種目を検討。
- 種目によっては、他市教育委員会との連携を実施。

各自治体の役割

- 豊後大野市教育委員会
 - ・総合型地域スポーツクラブ運営型及びスポーツ少年団運営型との調整・協議
 - ・地域クラブ運営、予算管理委託
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理委託

移動手段

- 基本的に保護者による移動
- 移行の準備期間としての合同部活動の移動は、タクシーでの輸送を行う。

事務局運営の方法

- スポーツ少年団との連絡調整は、社会教育課と連携して行う。
- 3つのエリアについて、総合型地域クラブとの協議を検討

取組の成果

- 地域クラブに参加した生徒は、69名であったが、そのうち、6名の生徒が活動エリア外の参加であり、参加したい全ての生徒を受け入れた。
- 他市と連携し、県中体連大会への参加ができた。

<地域クラブ人数>				
種目	チーム名	市内生徒数	市外生徒数	計
軟式野球	ネクサス	17		17
ソフトボール	三重ガールズ ソフトボールクラブ	9		9
柔道	三重柔道会	5		5
サッカー	FCスフィータ	9	6	15
野球・卓球 ・剣道・バレー	朝地フレンドクラブ (総合型)	23		23
計		63	6	69

今後の課題と対応方針

- 移行に取り組む種目数を段階的に増やし、令和8年度秋までに域内の全ての運動部活動を地域クラブ活動へ移行する。
- 指導者の確保が課題。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

豊後高田市において、令和6年9月、既存の小・中学生対象のカヌークラブを中学生のみ対象の地域クラブ「ぶんごたかだカヌークラブ」として開設。

活動の詳細

参加人数	5 人	指導者数	4 人
属性	総合型地域クラブ「TMKチャレンジクラブ」を母体		
具体的な内容	平日は16：30～ 2時間程度 休日は9：00～3時間程度 月15回程度活動する		
生徒の声	私はバスケットボールで中学県総体に出場したけど不完全燃焼のまま終えてしまいました。その思いを払拭するために新しくカヌー競技に挑戦しようと思いました。兄が高校のカヌー部に所属していたことも追い風になり、全国大会を舞台に活躍してみたいと強く思いました。クラブに入って暑い日も寒い日も練習する大変さがありますがどんどん上達していくことがとても嬉しく、高校でカヌーを続けるイメージも湧き頑張ろうと思います。		
関係者の声	● カヌー競技の普及につなげ、活躍できる選手の育成を期待したい。		
運営経費	運営費650,000円・・・市からの委託契約費 指導者への諸謝金は345,600円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

受益者負担上限3,000円で、その他の費用を市費で運用できるよう実証実験を行っていく。主な出費として、以下を考えている。

- ①コーディネーター費用 ②指導者謝金 ③移送費用 ④会場使用料 ⑤道具等費用
⑥大会等参加費用 ⑦保険費用

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・スクールバス購入費
- ・運動公園整備費
- ・グラウンド整備費

■ランニングコストの分析

- ①コーディネーター費用 ③移送に係る費用
②指導者謝金 ⑤道具等費用
④会場使用料 ⑥大会等参加費用 ⑦保険費用

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

竹田市では、平日は学校部活動、休日は地域クラブとして活動を行っており、備品は学校のものを使用している。指導者の謝金は1時間あたり1,600円で、休日3時間の指導では1人あたり約5,000円が必要となる。保護者負担の上限は3,000円と設定されているが、アンケートでは2,000円が適切との意見もあり、その場合、指導者1人につき月20,000円が必要となり、10人の部員が必要となる。市としては今後補助金等を視野に入れながら、残りを保護者負担とする方向で検討している。保護者負担の具体的な用途は、大会参加費、ユニフォームなどの消耗品、保険費用を想定している。

今後の課題と対応方針

竹田市では、令和6年度の実証実験を通じて、保護者負担がクラブの活動内容によって大きく変動することが明らかになった。そのため、市が各クラブに補助をし、その他の必要経費は保護者からの集金で賄う方向で検討している。補助金の使途についても、各クラブが独自に検討する方針である。運営費としては、各クラブへの補助金、事務局費用、備品・消耗品費等で見込んでいる。現在は国の補助金を活用しているが、今後は企業版ふるさと納税や基金の活用を進め、持続可能な財源確保を図っていく方針である。現状では、市の財政負担が大きく、今後の収入（企業版ふるさと納税・基金）が確保されない場合、持続可能性に課題が残る。今後、具体的な資金調達計画を立てることが必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施した。

取組の成果

○休日及び平日の全ての学校運動部活動を地域クラブ活動に移行。

○休日に加えて、平日の一部の学校運動部活動を地域クラブ活動に移行（例：平日の週3日は学校部活動、平日の週1日と休日の週1日は地域クラブ活動）。

活動の曜日

<地域クラブ活動>

種目	チーム名	月	火	水	木	金	土	日
軟式野球	ネクサス			○			○	○
ソフトボール	三重ガールズ ソフトボールクラブ		○		○		○	
柔道	三重柔道会	○		○		○	○	
サッカー	F C スフィーダ		○		○		○	○
野球・卓球 ・剣道・バレー	朝地フレンドクラブ (総合型)	種目により数日のみ部活動						

今後の課題と対応方針

○現、地域クラブは平日も指導可能な指導者が確保できているが、今後は指導者の確保が地域クラブ化への課題となる。人材バンクの活用を検討。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○県全体に関すること

市町村担当者会を実施し、先進事例や課題の共有を行うとともに、市町村の間の横のつながり作りを図った。文化部の所管課とともに、イマチャレ製作委員会と連携した個別の市町村へのサポートや県単独事業による補助、人材バンクの設置等足並みを揃えながら部活動改革に取り組んでいる。

○県立中学校

文化庁も文化庁の実証事業を受託しており、総合型地域スポーツクラブを受け皿に運動部・文化部の両方で地域クラブ活動を実施することができた。生徒や保護者、教員に対する地域移行の周知や学校行事との調整等に時間がかかり夏以降の活動になり実施期間が短くなったこと、クラブ指導者と学校部活動顧問の連絡調整スケジュールが合わずに部活動として実施した週が多かったこと等、次年度の活動に向けて解決すべき課題が残った。

○実施市

総括コーディネーターによる関係団体との連絡調整、総合型地域スポーツクラブとの連携、地域の実情に応じた活動種目の開催、平日を含んだ移行の検証等、課題や成果を蓄積しながら取り組みを推進し、次年度以降も県内各市町村のモデルとして参考となることが期待される。

●成果の評価

○有識者を交えた市町村担当者会議

イマチャレ製作委員会と連携した市町村担当者会議を3回実施ことに加え、市町村の個別サポートやオンライン会議も実施。特に、シンポジウムでは中学校体育連盟関係者も参加し行政側と学校現場の教職員が現状や課題を共有した。

○教育庁内PTによる検証

地域移行を円滑に進めるため、改革に係る課題等について教育委員会各課の委員で構成されたプロジェクトチームで協議（10月実施）

○アンケートによる検証

県立豊府中学校生及びその保護者、教職員を対象としたアンケートを実施
※結果については一部抜粋して報告書に記載

●今後に向けて

本県では、休日の部活動を令和7年度末までに地域クラブ活動へと移行することを目指して取組を進める中、地域の実情等により移行できない場合であっても、合同部活動の導入や部活動指導員などを適切に配置し、教員が直接休日の部活動に従事しない体制を構築するとともに、生徒の活動環境を確保することとしている。

当初目標の最終年度まで残すところ1年という状況の中、人材バンクの設置や登録促進、指導者養成研修の実施、市町村担当者会の開催や県独自の補助事業に加え、国の実証事業の課題や成果の共有等による多方面からの支援により、地域による進捗格差の是正を図り、目標に向け取り組みを推進していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・広報資料

令和6年度に県立大分豊府中学校生を対象とした地域クラブ「大分豊府ユナイテッド」を立ち上げ、その運営を総合型地域スポーツクラブハイタッチ大分に委託実施。既存の部活動について、一部の休日を大分豊府ユナイテッドで活動することに加え、生徒の多様なニーズ（ダンスやスキー等）に応じた活動を行うエンジョイクラブ活動を実施した。

休日の地域クラブ活動が始まります

大分豊府中学校の休日の部活動は学校主体の活動から地域が主体の活動へ…
大分県からの委託を受けて
「総合型地域スポーツクラブハイタッチ大分」が運営します！
本事業は「令和6年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業」により実施されています。

休日の地域クラブ活動は

専門性の高い指導者から指導を受けられる！

参加者のレベルに応じた活動を行います！

平日の部活動種目とは違う種目に参加可能！

地域クラブ活動の開催日

平日の部活動は継続しつつ、休日は段階的に地域クラブ活動に移行します。

月

火

水

木

金

土

日

学校で部活動 地域クラブ活動

総合型地域スポーツクラブハイタッチ大分とは

令和6年度(公財)日本スポーツ協会
総合型地域スポーツクラブ
全国協議会登録・認証団体

ハイタッチ大分の方針としてスポーツライフのきっかけ、入口としてスポーツを愛するすべての方のサポーターを目指します！

元トップアスリートや現役トップアスリート、トップアスリート指導経験のあるスタッフが正しい知識・正しい指導で子どもたちの成長をサポートします！



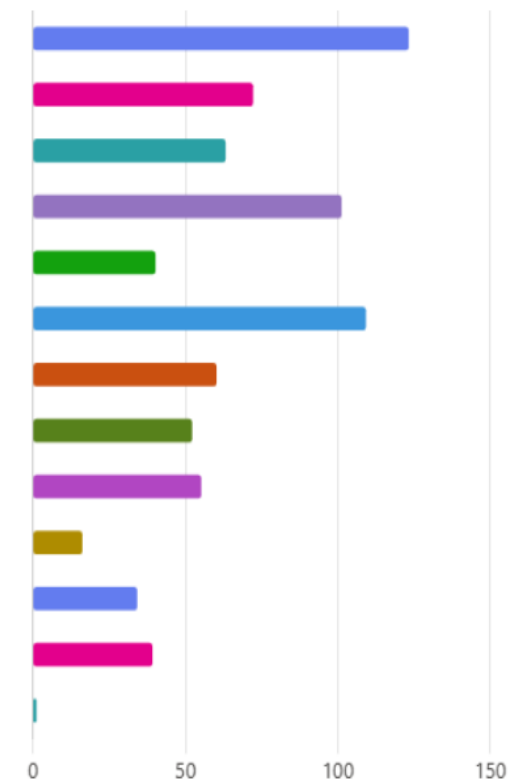
総合型地域スポーツクラブ
ハイタッチ大分

【生徒への参加啓発チラシ】

Q：大分豊府ユナイテッドの活動にどのようなことを期待しますか？

- | | |
|---------------------------|-----|
| ● 自由に参加できる雰囲気がある | 123 |
| ● 技術及び戦術的な指導を受けられる | 72 |
| ● 自分のレベルに応じた指導を受けられる | 63 |
| ● 友達と仲良く活動できる | 101 |
| ● 部活を引退しても参加できる環境を用意してくれる | 40 |
| ● 楽しんで活動できる | 109 |
| ● 費用負担が少ない | 60 |
| ● 専門の指導者からの直接指導 | 52 |
| ● 体力の向上 | 55 |
| ● 礼儀を身につける | 16 |
| ● 目標に向かってやり抜く力を身につける | 34 |
| ● 勝利や自己のレベル向上の追求をめざす | 39 |
| ● その他 | 1 |

【出典：大分豊府中学校生対象アンケートより抜粋】



【アンケート結果 (n=200)】

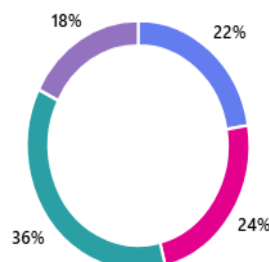
2.実証内容と成果③

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（R7年度の休日の活動について）

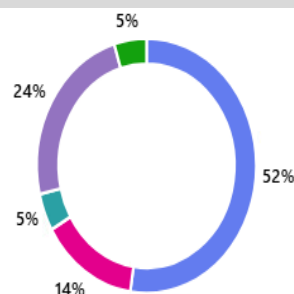
Q大分豊府中学校においては、令和8年度から、休日の活動は地域クラブでの活動となります。令和7年度の休日の活動について、あなたの考えを教えてください（生徒）。

● すべて地域クラブ活動	37
● 総体までは、今年度同様、部活と地域クラブの両方で活動	39
● 年間を通して、部活動と地域クラブ活動の両方で活動	60
● 土日は活動しない	29



Q県は、休日の部活動について「R7年度末までに地域クラブ活動へ移行することを目指す」とし、豊府中においてはR8から休日の活動は地域クラブ活動となります。R7年度の豊府中における休日の活動の扱いについて、あてはまるものをお答えください（教員）。

● R7年度当初から、全て地域クラブ活動で実施	11
● R7年度の中学総体後、全て地域クラブ活動で実施	3
● R7年度中は、現在同様、学校部活動と地域クラブを並行して実施	1
● R7年度当初から、段階的に地域クラブ活動を増やしていき、R8年度から完全実施	5
● その他	1



●参加者の声

エンジョイクラブ（ダンス）参加生徒

私はダンスの経験がほとんどなかったのですが、それでもすごく楽しむことができました。短時間でクオリティが高いダンスができ驚いています。今回はこのような場を設けていただきありがとうございました！

エンジョイクラブ（フットサル）参加生徒

初めてのフットサルでしたが、サッカーとは全然違うボールの使い方をするとところなど、サッカーとは違う感覚で面白かった。また参加したいです。

エンジョイクラブ（スキー）参加生徒の保護者

前夜はワクワクして寝れないようでした。帰宅してからは、とても楽しかった！最高！また行きたい！と、寝るまで興奮していました??貴重な体験をさせていただき感謝です。ありがとうございました。

指導者（など）

生徒が専門的な技術を習得できるところや、スキーや有名選手を招いての活動など、地域クラブ活動を実施することにより学校では行われない活動を体験できたことは素晴らしいことだと思いました。

※県立中学校へのアンケート（生徒・教員・保護者）から抜粋

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【スキー教室（エンジョイ）】



【卓球クラブ】



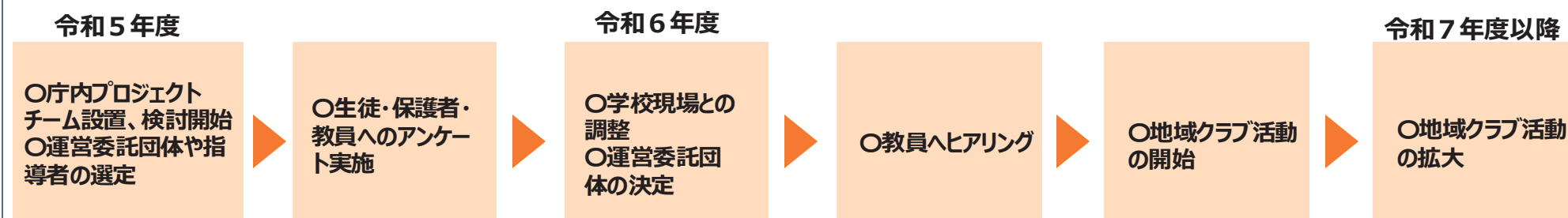
【フットサル（エンジョイ）】



【バレーボールクラブ（トップアスリート講座）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス（県立中学校）



●ステークホルダー

学校、総合型地域スポーツクラブ、コーディネーター、競技団体、県教育委員会、県スポーツ協会

●経過

県は、令和5年3月に「大分県の学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する方針」を策定し、「休日の公立中学校の部活動は、令和7年度末までに地域クラブ活動へと移行することを目指す。」と明記。この方針をもとに、令和5年から県立中学校における地域移行の在り方について庁内プロジェクトチームで協議し、県立中学校生を対象とした新たな地域クラブを立ち上げて次年度から活動開始することを決定した。令和6年度は、新たな地域クラブの名称を「大分豊府ユナイテッド」とし、その運営を総合型地域スポーツクラブに委託し、コーディネーターが学校との連絡調整や指導者の掘り起こし等を行い、休日の部活動を最低月に一度は大分豊府ユナイテッドでの活動とするよう、9月の休日から順次可能なクラブで活動をスタートした。

●実施内容

県立中学校の既存の部活動10種目をベースとした「大分豊府ユナイテッド」では、既存の部員、平日と異なる種目への参加や休日のみクラブ活動に参加することも可能であり、種目専門の指導者の指導の下活動を実施している。また、生徒の多様なニーズに応じたスポーツ活動に親しむ機会を確保・充実するため、全校生徒を対象としたエンジョイクラブにおいてダンスやフットサル、リズムトレーニングなどの活動を実施した。

●実施にあたって生じた課題

活動スタート当初、アプリを使ってスケジュールの共有や出欠管理を行ったが、参加生徒の顔が分からず出欠の把握に苦労した。また、学校施設の鍵の借用及び管理についてコーディネーターの負担が大きく、本事業においては特に、学校関係者との連絡調整を密に行うことが必要であった。

●今後の展開

令和7年度の中学総体以降、全ての休日の活動を大分豊府ユナイテッドで実施し、エンジョイクラブについて更に生徒のニーズに対応した種目で実施する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

【大分県の方向性】

- 休日の部活動は、令和7年度末までに地域クラブ活動へと移行することを目指す
- 地域の実情等により、令和7年度末までの移行できない場合であっても、合同部活動等の導入や部活動指導員、外部指導者を適切に配置する

県スケジュール

R 6【移行準備】

各市町村において、移行体制整備及びモデル事業準備・スタート

R 7【拡充】

全市町村が、モデル及び地域を拡充して地域クラブへの移行を展開

R 8～【実施】

県内の全公立中学校において休日の部活動の地域移行実施

県単独補助事業 150万円（1/2上限） ※実証事業実施以外の市町村

生徒からの会費＋市町村からの補助で運営

県立中学

【モデル事業スタート】

9月から、一部又は全ての休日の部活動を最低月に1度は地域クラブ活動とする

【モデル事業を継続】

【8月まで】

一部又は全ての部活動における休日の活動を地域クラブとして実施する日数を増やす。

【9月以降】

原則、全ての休日における部活動を地域クラブ活動とする。また、平日の活動についても移行を検証する。

【全ての休日の部活動を地域クラブ活動とする】

平日の部活動について、月1回程度は地域クラブでの活動とする。

実証事業

令和3・4年度に実施した 総合型クラブと連携した地域移行実践

■豊後大野市
(朝地小中学校)
(朝地フレンドクラブ)

○学校単位から地域単位
へ展開拡充

■大分市
(野津原小中学校)
(七瀬の里Nクラブ)

○生徒のニーズに合った
部活動の精選
(加入率増加)

令和5・6年度に実施した 総括コーディネーター配置及び市内全域 での移行実践

【R5】

■豊後大野市

■由布市

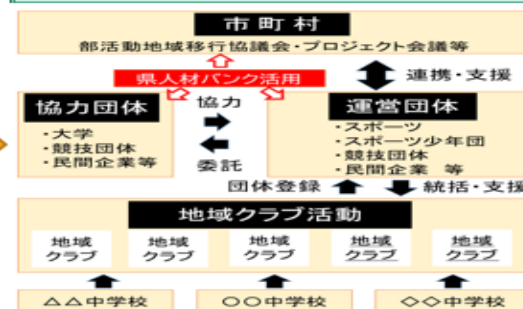
■国東市

【R6】

■豊後高田市

■竹田市

令和7年度 事業実施イメージ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県 竹田市

自治体名：大分県竹田市

担当課名：竹田市教育委員会 学校教育課

電話番号：0974-63-4833

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	477.5 km ²
人口	18,808 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	379 人
部活動数	11 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	○部活動検討委員会 ○部活動のあり方検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	竹田市の学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する方針（令和6年2月）

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

竹田市では、少子化や教員の働き方改革を踏まえ、学校部活動の地域移行に向けた取り組みを進めている。既に陸上競技で「TAKETA T&F」、剣道では「竹田剣友会」が受け皿となり、市内4校の生徒が参加できる体制を整え、休日のみならず平日も活動を実施している。軟式テニスや野球についても、去年度より4校合同練習を実施し、地域移行に向けたイメージ作りを進めてきた。バレーボールは令和8年4月から地域クラブとしての活動を開始する予定であり、卓球やバスケットボールに関しても、顧問や受け皿となる団体と協議を進めている段階にある。

地域移行を進める上での課題としては、指導

者の確保や指導の質の維持、学校施設の活用方法、生徒の輸送手段の確保などが挙げられる。竹田市ではスクールバスを活用することで、生徒の移動の負担を軽減し、地域クラブ活動への参加を促進する仕組みを整えている。保護者負担については、アンケートをもとに一定の金額を設定し、概ねの目安を示しているが、最終的には各地域クラブごとに運営方針に応じた費用を決定することになっている。今後は、持続可能な体制の確立に向けて、既存の成功事例を活かしながら、すべての競技において円滑に地域移行が進むよう、関係者間での協議を重ねていく必要がある。

竹田市の出生数の推移
(住民基本台帳ベース、日本人住民)



■ 今後の推移 (竹田市)

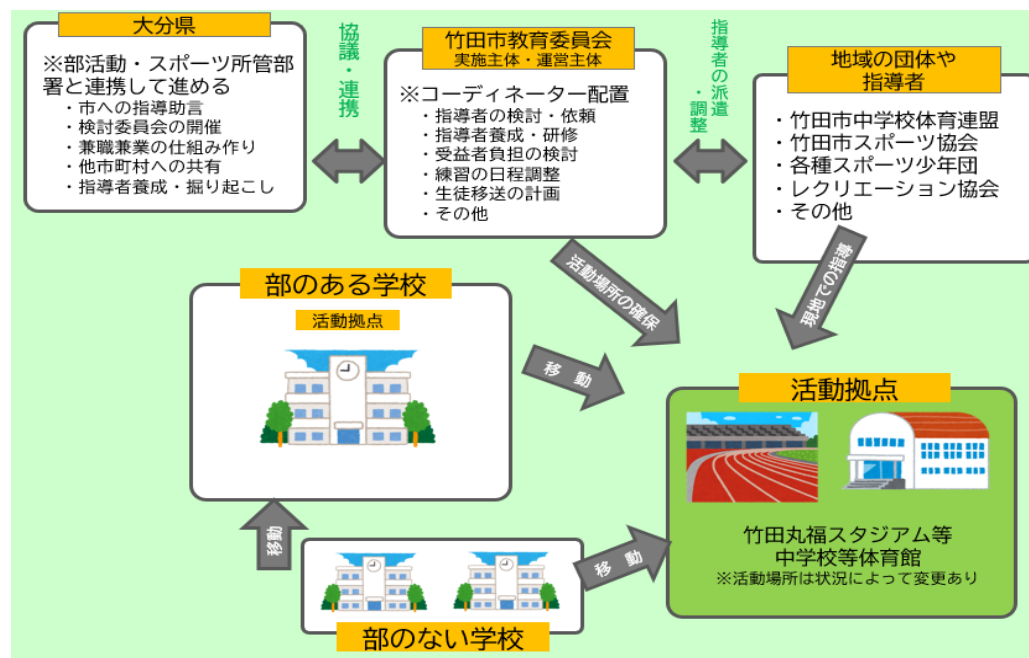
【中学校】												
年	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
6	46	42	48	136	46	42	48	136	23	23	19	65
7	49	46	42	137	40	30	46	116	22	23	23	68
8	32	49	46	127	43	40	30	113	15	23	23	61
9	32	52	49	133	32	43	40	115	21	15	22	58
10	60	52	32	144	30	32	43	105	9	21	15	45
11	42	40	32	114	36	33	32	101	12	9	21	42
12	51	42	40	133	35	36	33	104	11	12	9	32
13	40	51	42	133	21	35	36	92	9	11	12	32
14	41	40	31	112	22	21	35	78	9	9	11	29
15	54	41	40	135	28	22	21	71	15	9	9	33
16	28	54	41	123	15	28	22	65	11	15	9	35
17	33	28	34	95	17	15	28	60	9	11	15	35
18	29	33	28	90	20	17	15	52	7	9	11	27

10年間で35%減少
12年間で50%減少

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課・・・部活動改革の主管、学校との調整・連携、学校に関する事項
- ・生涯学習課・・・地域文化、運動拠点の環境整備、公共施設予約システムの整備
- ・教育総務課・・・スクールバスの運行計画・運用

◎首長部局

- ・企画情報課・・・ふるさと納税検討
- ・財政課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年4月	・中体連との協議 ・中学校新入生保護者説明会 ・タクシー協会との協議 ・県保健体育課との協議 ・第1回部活動のあり方検討委員会 ・第1回地域クラブ指導者研修会 ・陸上クラブ、竹田剣友会発足式
令和6年5月	・竹田支援学校との協議 ・中体連との協議
令和6年6月	・部活動顧問連絡会（野球・テニス）
令和6年7月	・部活動地域移行コーディネーター着任 ・第1回部活動検討委員会 ・第2回地域クラブ指導者研修会
令和6年9月	・各クラブとの意見交換会
令和6年10月	・第2回部活動のあり方検討委員会
令和7年1月	・第3回部活動のあり方検討委員会 ・第2回部活動検討委員会 ・部活動地域移行保護者説明会
令和7年2月	・第3回地域クラブ指導者研修会
令和7年3月	・令和7年度保険加入開始

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（4 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	10 人	全体の運営スタッフ数	10 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
TAKETA T&F	A	陸上 (新)	月 12回／ 週 3 回	平日 17:30～ 19:00 休日 8:30～11:30	47人 中1：24人 中2：16人 中3：7人	4月 ～3月	竹田丸 福陸上 競技場	7 人	7 人 (内、兼 務0 人)	年会費 2,000円 ※大会参加 費等はその集 金	中体連：部活動 その他：地域クラブ
竹田剣友 会	A	剣道 (新)	月4回／ 週1回	休日 8:30～11:30	6人 中1：2人 中2：4人 中3：1人	4月 ～3月	竹田中 学校	3 人	3 人 (内、兼 務0 人)	年会費 800 円 ※大会参加 費等はその都 度集金	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 令和7年 1月 体験会
- 令和7年 3月 体験会

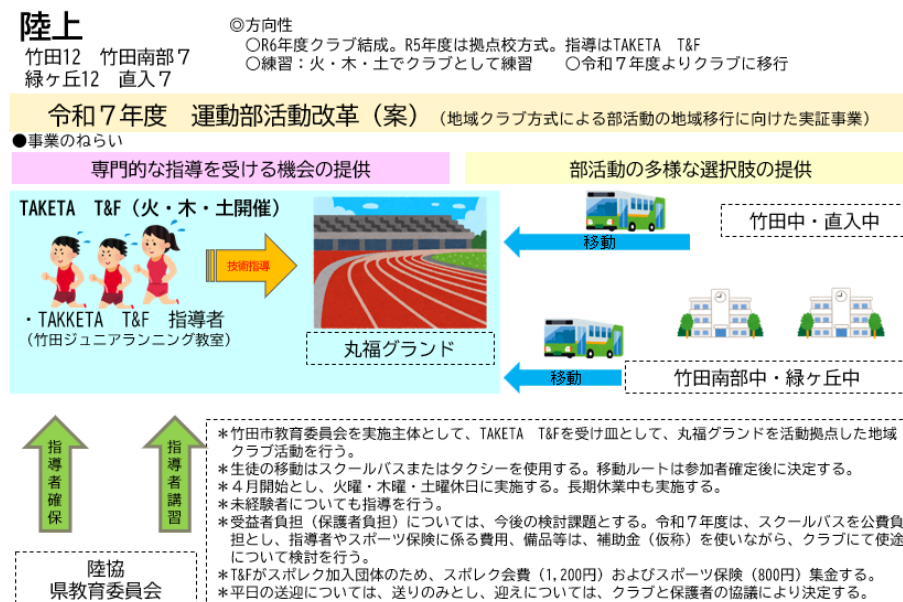
2.実証内容と成果

主な取組例

●TAKETA T&F 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営団体名	TAKETA T&F
期間と日数	陸上：4月1日～3月31日 月12回程度
指導者の主な属性	地域指導資格者、中学校教員 (市議会議員、消防士など)
活動場所	竹田丸福陸上競技場
主な移動手段	スクールバス、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	陸上：2,000円 ※大会参加費等は別途集金
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う。

●主任指導者 2名

役割：活動における主任者として、生徒の指導を行う

●運営補助者 4名

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

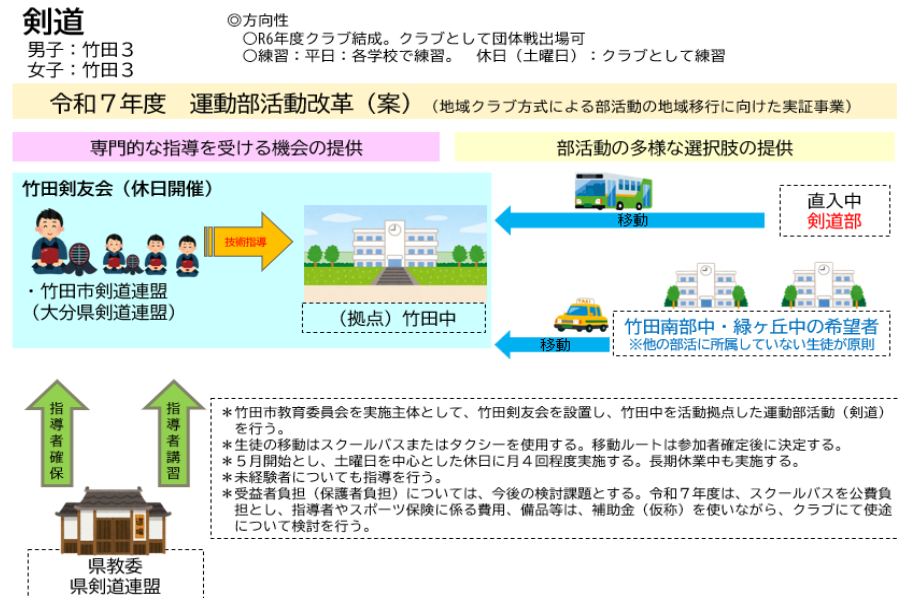
2.実証内容と成果

主な取組例

●竹田剣友会 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道
運営団体名	竹田剣友会
期間と日数	陸上：4月1日～3月31日 月4回程度
指導者の主な属性	地域指導資格者、中学校教員 (元高校教員など)
活動場所	竹田中学校
主な移動手段	スクールバス、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	陸上：800円 ※大会参加費等は別途集金
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う。

●主任指導者 2名

役割：活動における主任者として、生徒の指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

竹田市では、部活動の地域移行を進めるため、竹田市教育委員会を実施主体とし、関係団体や教員OB、現職教職員と連携し、指導者を派遣する体制を整えている。拠点は市内中学校および竹田丸福陸上競技場とし、部活動コーディネーターを設置して連絡調整や事務を担当する。さらに、連絡ツールを活用し、学校や保護者と直接連携を図り、円滑な運営を支えていく。

取組の成果

竹田市では、部活動の地域移行を進める中で、継続的な指導者の確保に努めている。地域コーディネーターは教育委員会およびスポーツ主管課と連携し、指導者確保に向けた連絡調整や専門部会に参加し、安定した指導体制の構築に取り組んでいる。また、生徒の移送方法については、現状スクールバスを活用し、活動拠点の整理を進めることで、各校からの送迎が円滑に行えるようコーディネーターが調整を行っている。

指導者謝金については、週7時間、年間45週、1,600円の単価で8人分の確保に努めている。受益者負担については、休日みの地域クラブで上限2,000円、平日を含む場合は上限3,000円とし、保護者の理解を得ながら設定を進めている。教員の負担軽減にも一定の成果が見られた。指導者として参加した教員は、地域クラブ指導員と協力して指導にあたることで、土曜日の指導が月あたり1日～2日減少しており、教員の業務負担の軽減につながっている。

※右表は兼職兼業の職員の指導時間の推移

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
例年	28h	28h	28h	28h	28h	28h	28h	28h	28h	28h	280h
実績	6h	8h	16h	15h	8h	3h	2h	7h	2h	7h	74h

コーディネーターの具体的な動きの実績

●部活動地域移行コーディネーター

コーディネーターは、各クラブ指導者と連携し、毎月15日までに活動実績をまとめ、25日までに翌月の計画を作成している。また、練習計画をもとにスクールバスの運行計画を立て、バスの予約を行っている。さらに、各クラブの要望を聞き取り、活動環境の改善に努めるとともに、丸福陸上競技場に出向き、練習の様子や競技場使用時の課題を把握している。これらの調整を通じて、円滑な地域クラブ活動の運営を支えている。

今後の課題と対応方針

今後は、アンケートの実施を含め、定量的な成果の把握に努めるとともに、地域クラブ活動の充実に向けた課題を明確にすることが求められる。また、教員の負担軽減をさらに進めるため、地域クラブとの連携を強化し、指導体制の見直しを継続する。加えて、生徒・保護者・学校・地域への周知を徹底し、年度初めの説明会の開催を通じて、地域クラブ活動の理解を深める取り組みを継続する。持続可能な運営体制の構築を目指し、関係機関と協力しながら改善を図っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

取組事項

スポーツ指導者講習受講の指導者を基本的に採用。

また、指導者に関しては受講を進める。体罰やスクールセクハラなどの服務に関する指導者研修の実施。

受講者の声

- ・講師の先生の親しみやすい雰囲気のおかげで、生徒に教える際に大事なことをわかりやすく知ることができた。（地域クラブ指導者）
- ・生徒はもちろん、教員や教育委員会とも連携していきたい（地域クラブ指導者）
- ・大変楽しく学べた。指導者の発掘と体制づくりに頑張りたい。（教育委員会）
- ・このような研修をしていただいて嬉しかった。これから指導者になる方も積極的に受講してほしい。（中学校外部指導者）

今後の課題と対応方針

竹田市では、人材バンクの活用は行わず、地域の団体と協力しながら指導者の確保を進めている。地域の指導者と直接対話し、協力を依頼することで、持続可能な指導体制の構築を目指している。また、指導の質を保証するため、年2回の指導者研修を計画しており、継続的な育成にも取り組んでいる。今後も安定した指導者の確保が課題となる。

指導者研修の内容・参加実績

●第1回指導者研修会 4月26日

- ・会 場：竹田市役所会議室
- ・内 容：竹田市の方針、服務について
- ・参加者：16名



●第2回指導者研修会 7月6日

- ・会 場：別府大学講堂
- ・内 容：「部活動の教育的意義と生徒理解」
- ・講 師：別府大学教授
- ・参加者：20名

●第3回指導者研修会 9月13日

- ・内 容：県の状況、部活動の歴史、指導上の留意点
- ・指導者：竹田市文化連盟会長
- ・参加者：10名

●第4回指導者研修会 2月18日

- ・内 容：竹田市の状況を振り返り、来年度の方向性を議論
- ・参加者：7名



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会やPTA連合会等において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 指導者の派遣、施設の利用について竹田市スポーツ少年団等と連携
- 路線バスやスクールバスを活用し、生徒の活動場所までの移動手段を確保した。

取組の成果

竹田市では、関係団体や各分野との連携を強化し、部活動の地域移行を円滑に進めている。中学校校長会や竹田市中学校体育連盟とは、「部活動のあり方検討委員会」を設置し、協議を行った。その中で、平日・休日の練習時間や活動時間の設定、テスト期間の運用、中体連の参加体制について話し合いを進め、各校の実情に応じた調整を行った。また、各競技種目については、地域のスポーツ団体やスポーツ少年団と個別協議を実施し、競技ごとの顧問連絡会を設けることで、指導環境の整備を進めた。これにより、地域クラブ活動の円滑な運営と生徒の受け入れ態勢の充実を図った。さらに、中学校校長会やPTA連合会を訪問し、学校の協力を得ることで、市内全ての生徒に対して事前周知を行う機会を確保した。これにより、募集チラシの配布が可能となり、地域クラブ活動の認知度向上につながった。各運営主体が活動する際には、指導者が競技指導に専念できるよう、会場の施設を簡素化し、開場や参加者の出欠確認は運動公園の職員や兼職兼業の教員の協力を得るなど、円滑な運営を支援する体制を整えた。また、地域クラブ活動の継続的な運営には生徒の移動手段の確保も重要であるため、休日だけでなく平日にもスクールバスを運行し、生徒が負担なく参加できる環境を整備した。

バス等の運行実績

- 日数 134日
- 利用者数 約80人／1日
- 運行経路
 - ・第1便：直入中→竹田中→丸福ランド
 - ・第2便：緑ヶ丘中→竹田南部中→ランド
 - ・第3便：竹田南部中→竹田中

バス等の運航経費・収入

- スクールバス運行費用
 - ・人件費： 59,716,800円
 - ・福利厚生費： 2,805,400円
 - ・運行管理費： 2,100,000円
 - ・校外学習管理費： 1,000,000円
 - 合計 65,622,200円

今後の課題と対応方針

今後は、バス運行の安定化に向けて運転手の確保を進めるとともに、保護者にも送迎の協力を依頼する。また、関係団体との連携を強化し、指導体制や運営の質を向上させ、地域全体で生徒のスポーツ・文化活動を支える仕組みを充実させていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

竹田市では、吹奏楽部や陸上部の取組を参考に、地域クラブ活動の周知と展開を進めている。TAKETA T&Fクラブや竹田市剣道連盟は幼少期から青壮年までの指導を行い、生涯スポーツの推進を図っている。今後は、競技スポーツの魅力を広く発信し、他競技にも展開できる環境を整えていく。

各自治体の役割

- 竹田市教育委員会
 - ・地域クラブ運営、予算管理
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理
 - 豊後大野市教育委員会
同上
- ※予算については協議

移動手段

○他市での参加については、自己解決。

事務局運営の方法

竹田市教育委員会で生徒を把握し、各市と協議の上、参加体制等を決定している。

部活動の状況（7月末現在）中体連終了後1,2年

		竹田	竹田南部	緑ヶ丘	直入
軟式野球	23 女子1	8 女子1	12	5	1
バレーボール	18	11	9	1	-
卓球男子	26	2	10	9	6
卓球女子	17	8	8	1	-
軟庭男子	24	13	16	-	-
軟庭女子	23	7	10	4	3
バスケットボール	15	15	-	-	-
剣道男子(クラブ)	3	3	-	-	-
剣道女子(クラブ)	3	3	-	-	-
陸上男子(クラブ)	35	8	4	14	9
陸上女子(クラブ)	15	4	7	-	4
吹奏楽(クラブ)	28	18	10	-	-
(大野)サッカー	5				
(大野)フットボール					
(大分)バレーボール	2				

取組の成果

竹田市では、他市のクラブチームに所属する生徒の支援も進めている。現在、大分市のクラブチームに所属する生徒が2名いるが、大分市では九州大会や全国大会の参加費補助を行わない方針のため、竹田市が補助を行う。また、豊後大野市のサッカークラブに在籍する5名については、豊後大野市と連携し、クラブチームとして中体連に参加できる体制を整えた。さらに、各市では地域クラブに参加する生徒の移動手段は各自で対応することとなっているが、中体連の県大会に参加する際には、竹田市が借り上げたバスを利用できるようにし、生徒の移動の負担を軽減している。今後も、他市との連携を深めながら、生徒が地域クラブを通じて継続的に競技に取り組める環境を整え、支援の充実を図っていく。

今後の課題と対応方針

今後、竹田市の地域クラブには他市からの参加も想定される。地域のスポーツ振興を図るため、九州大会や全国大会への出場に関しては、できる限りの補助を行い、生徒が競技を続けやすい環境を整えていく。また、竹田市以外のクラブに所属する生徒についても同様に支援を行い、広域的なスポーツ振興を推進していく。今後も関係自治体と連携を深めながら、競技の機会を確保し、地域クラブの発展を支援していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

技術だけでなく心の面での指導についても専門性の高い指導を行い、その競技の素晴らしさに出会う機会を創出していく。その他のクラブについても指導内容を検討し、心身ともに育っていく体制を作っていく。

取組の成果

竹田市では、競技力の向上だけでなく、心の成長も重視し、専門性の高い指導を通じて競技の魅力に触れる機会を創出している。陸上競技では、市内4校の生徒がスクールバスを利用して集まり、地域の指導者のもとで活動している。

竹田市は駅伝や長距離の伝統があり、地区ごとの駅伝大会が開催されるほど盛んである。生徒は中体連の大会に加え、市内や宮崎県の大大会にも参加し、全国レベルの選手を招いた陸上教室にも参加している。全生徒の約1割が陸上部に所属し、走る楽しさを学びながら競技に取り

組んでいる。

剣道は竹田剣友会として活動し、教士8段の県剣道連盟副会長をリーダーに、7段・6段の指導者が指導にあたっている。中体連だけでなく、他の試合にも積極的に参加している。

また、竹田市では複数のクラブに所属できるため、剣道をしながら陸上に取り組む生徒もあり、幅広い競技経験が可能となっている。今後も、他のクラブの指導内容を充実させ、心身ともに成長できる環境を整えていく。

今後の課題と対応方針

竹田市では、専門的な指導を通じて競技の魅力を伝えているが、指導者の確保と育成が課題となっている。特に高齢化が進む中で、若手指導者の確保や継続的な育成が求められる。また、競技の選択肢の拡充も必要であり、陸上や剣道は指導環境が整っているが、他の競技では指導体制にばらつきがあり、文化系の活動の充実も課題である。

さらに、複数クラブ所属の仕組みを活かすため、スケジュール調整や負担軽減に配慮した運営が必要となる。加えて、地域クラブの持続的な運営には、指導者の報酬や施設利用費の確保など資金面の安定化が求められる。今後は、関係団体と連携し、心身の成長を支える環境づくりを進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

受益者負担上限3,000円で、その他の費用を市費で運用できるよう実証実験を行っていく。主な出費として、以下を考えている。

- ①コーディネーター費用 ②指導者謝金 ③移送費用 ④会場使用料 ⑤道具等費用
⑥大会等参加費用 ⑦保険費用

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・スクールバス購入費
- ・運動公園整備費
- ・グラウンド整備費

■ランニングコストの分析

- ①コーディネーター費用 ③移送に係る費用
②指導者謝金 ⑤道具等費用
④会場使用料 ⑥大会等参加費用 ⑦保険費用

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

竹田市では、平日は学校部活動、休日は地域クラブとして活動を行っており、備品は学校のものを使用している。指導者の謝金は1時間あたり1,600円で、休日3時間の指導では1人あたり約5,000円が必要となる。保護者負担の上限は3,000円と設定されているが、アンケートでは2,000円が適切との意見もあり、その場合、指導者1人につき月20,000円が必要となり、10人の部員が必要となる。市としては今後補助金等を視野に入れながら、残りを保護者負担とする方向で検討している。保護者負担の具体的な用途は、大会参加費、ユニフォームなどの消耗品、保険費用を想定している。

今後の課題と対応方針

竹田市では、令和6年度の実証実験を通じて、保護者負担がクラブの活動内容によって大きく変動することが明らかになった。そのため、市が各クラブに補助をし、その他の必要経費は保護者からの集金で賄う方向で検討している。補助金の使途についても、各クラブが独自に検討する方針である。運営費としては、各クラブへの補助金、事務局費用、備品・消耗品費等で見込んでいる。現在は国の補助金を活用しているが、今後は企業版ふるさと納税や基金の活用を進め、持続可能な財源確保を図っていく方針である。現状では、市の財政負担が大きく、今後の収入（企業版ふるさと納税・基金）が確保されない場合、持続可能性に課題が残る。今後、具体的な資金調達計画を立てることが必要である。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

竹田市では、少子化や教員の働き方改革を踏まえ、部活動の地域移行を進めてきた。

地域クラブの受け皿として、陸上競技ではTAKETA T&Fクラブ、剣道では竹田剣友会が既に機能しており、他の競技についても学校や地域団体と連携しながら移行の準備が進められている。

保護者負担については、各クラブの活動により異なるため、市が補助金を支給し、残りは保護者負担とする方向で調整している。

現状では国の補助金を活用しているが、将来的には企業版ふるさと納税や基金の活用を進める予定である。指導体制の確保や地域との連携強化を図りながら、持続可能な運営モデルの構築が求められている。

●成果の評価

部活動の地域移行により、専門的な指導を受ける機会が増えたことや、競技の選択肢が広がったことが大きな成果である。特に、陸上競技では市内4校の生徒がスクールバスを利用し、全国レベルの指導者を招いた陸上教室にも参加するなど、競技力向上と生涯スポーツの促進が進んでいる。また、剣道では教士8段の指導者がリーダーとなり、専門性の高い指導が行われている。

一方で、クラブによる指導体制のばらつきや、文化系の活動の選択肢の少なさが課題として挙げられる。財政面では、市の補助金や保護者負担により運営が可能な見込みだが、将来的な財源確保のために民間資金の活用や財政支援の仕組み作りが求められる。

●今後に向けて

今後は、指導体制の安定化と選択肢の充実が重要となる。特に、指導者の確保や育成を継続し、他の競技にも専門性の高い指導を展開することが必要である。また、文化系クラブの選択肢を広げ、スポーツ以外の活動機会を増やすことも求められる。

財政面では、企業版ふるさと納税や基金を活用した資金確保の仕組みを具体化し、市の負担を抑えつつ持続可能な運営モデルを確立する必要がある。さらに、保護者や地域とのコミュニケーションを強化し、説明会や意見交換の場を設けることで、移行に対する理解を深めることが重要である。これらの取り組みを通じて、竹田市全体で生徒のスポーツ・文化活動を支える環境を整えていく。

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果 保護者説明会を受けての質問及び意見の概要

1. 地域移行に対する賛否と意見

- ・先生の負担軽減のため、早期の地域移行を希望する声がある一方で、詳細が決まるまで判断できないとの意見もある。
- ・選択肢が増えることを評価する声がある一方で、地域に競技の受け皿がない場合の対応を求める意見も見られる。
- ・文化部の選択肢の少なさを懸念し、運動部以外の活動の充実を求める意見がある。

2. 指導体制・移行スケジュールに関する懸念

- ・土曜日の指導者交代による影響や、指導の統一性・試合時の指揮体制に対する不安がある。
- ・部活動と地域クラブの連携強化を求める意見があり、学校教員と地域指導者の情報共有の必要性が指摘されている。
- ・スポーツ少年団との連携強化を望む声があり、平日の指導日を共有するなどの柔軟な対応が求められている。

3. 競技環境・移動手段に関する要望

- ・移動手段の確保が課題であり、送迎の負担軽減策やバス運行の詳細についての情報を求める声が多い。
- ・練習場所の分散開催（各学校や地区ごとのローテーション）を検討するよう求める意見がある。
- ・市外クラブへの参加に対する支援（月謝補助など）の導入を望む声がある。

4. 情報共有・説明不足への指摘

- ・詳細が決まっていないため判断しづらいとの意見が多く、随時情報を共有する仕組みが求められている。
- ・生徒・保護者への説明不足により、混乱が生じているとの指摘があり、今後は説明会の充実や定期的な無記名アンケートの実施が求められる。
- ・直接質問できる窓口の設置を希望する声があり、メールやオンラインフォームなどの活用が求められている。

5. その他の具体的な要望

- ・クラブ指導者の待遇や負担の明確化（給与・家庭負担など）を求める意見がある。
- ・中体連の県大会参加時の移動手段の確保について、竹田市の借上げバスの利用を歓迎する声がある。
- ・地域クラブの長期的な存続に対する不安があり、指導者の確保やクラブの継続性に関する明確な方針を示してほしいとの意見がある。

このように、地域移行に賛成する声は多いものの、指導体制の不安や移動手段の課題、説明不足による不安が多く見られる。今後、具体的な情報提供や関係者間の連携強化が重要となる。

広報資料

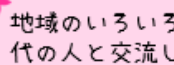
小・中学生 保護者の皆さまへ 令和8年度から 休日の部活動が変わります

専門的な指導を受け
競技力を高めたい



自分のやりたい
活動に参加したい

他校の生徒と一緒に
活動してみたい



地域のいろいろな世
代の人と交流したい

スポーツや文化活動の選択肢が増えます！

令和7年度から参加できる地域クラブ活動

吹奏楽

実施：毎週土曜
場所：竹田中音楽室

剣道

実施：毎週土曜
場所：竹田中武道場

陸上

実施：火曜・木曜
17:30～19:00
土曜8:20～11:00
場所：丸福グラウンド

バレー

実施：毎週土曜
場所：竹田中（女子）
萩（男子）

※4月に各学校に申し込みを配布します。

野球 8月から

Q1 学校の部活動が地域移行されると何がかわるの？
休日の活動が学校単位のチームから竹田市全域または地域のチームに変わります。

Q2 「地域クラブ活動」はどのような団体ですか。
今まであるスポーツ少年団や学校単位（合同含む）での活動へ指導者を派遣するなど様々な例が考えられます。地域の実態や生徒のニーズに合わせた活動が確保できるように検討してまいります。

Q3 「地域クラブ活動」へは必ず参加しなければなりませんか？
活動への参加は任意になります。休日は、平日と違う活動に参加することも可能です。

Q4 「地域クラブ活動」で活動するための費用はどのようにになりますか？
活動するための消耗品費や休日の活動を対象とした保険への加入などの費用がかかります。費用負担の内容や方法については現在検討しています。

竹田市教育委員会 学校教育課 0974-63-4833 生涯学習課 0974-63-4817

竹田市の学校部活動及び新たな地域クラブ活動のあり方等に関する方針【概要】

竹田市教育委員会

《目的》学校部活動の意義や役割を、地域クラブ活動においても継承・発展させ、さらに、専門的な指導の提供、地域での多様な体験や様々な世代との交流を通じた学びなどの新しい価値が創出を目的とする。

《目ざす姿》

- 少子化の中でも将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保すること
- 地域の実情に応じスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消すること
- 地域クラブ活動が学校教育関係者等と必要な連携を図りつつ、発達段階やニーズに応じた多様な活動ができる環境を整えること

1. 学校部活動

学校部活動は教育課程外の活動であり、その設置・運営は学校の判断により行われるものであるが、学校部活動を実施する場合には、その本来の目的を十分に果たし、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術環境となるように示す。

- 1 適切な運営のための体制整備
- 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進
- 3 適切な休養日等の設定
- 4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備
- 5 学校部活動の地域連携

2. 新たな地域クラブ活動

学校と地域との連携・協働により、学校部活動で担ってきた生徒のスポーツ・文化芸術の機会を地域スポーツ・文化芸術から支えるという視点も有しつつ、新たな地域クラブ活動の在り方や運営体制、活動内容等について示す。

- 1 新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法
- 2 適切な運営や効率的・効果的な活動の推進
- 3 学校との連携等

3. 学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行について、地域の実情に応じた生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化に資するよう、その進め方や検討体制、スケジュール等について示す。

- 1 新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法
- 2 休日の学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行の段階的推進
- 3 地方公共団体における総合的・計画的な取組

4. 大会等のあり方

地域クラブ活動の実施に伴いあるべき大会等の在り方について示す。

- 1 生徒の大会等の参加機会の確保
- 2 大会等への参加の引率や運営に係る体制の整備
- 3 生徒の安全確保
- 4 大会等の在り方

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

		R4	R5	R6	現状	R7	R8
軟式野球	竹南緑直	合同部活	合同部活	合同練習 2月～	合同練習開始 部活動指導員委嘱	平日部活 8月～休日クラブ	平日部活 休日クラブ
バレーボール	竹南緑直	合同部活	合同部活	合同練習 8月～	R7.4クラブ化に向けて 準備中	平日部活 4月～休日クラブ	平日部活 休日クラブ
卓球男子	竹南緑直	-	-		顧問の会		平日部活 休日クラブ
卓球女子	竹南緑直	-	-		顧問の会		平日部活 休日クラブ
軟庭男子	竹南緑直	-	-	合同練習 8月～	受け皿団体の検討 部活動指導員委嘱	平日部活 休日合同練習	平日部活 休日クラブ
軟庭女子	竹南緑直	-	-	合同練習 8月～	受け皿団体の検討 部活動指導員委嘱	平日部活 休日合同練習	平日部活 休日クラブ
バスケットボール	竹南緑直	-	-		方向性について協議	平日部活 休日クラブ	平日部活 休日クラブ
剣道	竹南緑直		合同部活	平日部活 休日クラブ	部活動指導員委嘱	平日部活 休日クラブ	平日部活 休日クラブ
陸上・駅伝	竹南緑直		拠点校方式	平日部活 休日クラブ	部活動指導員検討	クラブ	クラブ
吹奏楽	竹南緑直	合同部活	平日部活 休日クラブ	平日部活 休日クラブ		平日部活 休日クラブ	平日部活 休日クラブ
サッカー	5						
ソフトボール	1						

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県 豊後高田市

自治体名：大分県豊後高田市

担当課名：学校教育課

電話番号：0978-53-5112

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	206.6 km ²
人口	21,711 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	475 人
部活動数	42 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	設置済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は6校の中学校があり、市の中心校となる1学校が生徒数約360人で、周辺校の5校は生徒数が約10人から40人の小規模校となっている。中心校は多くの部活動が設置されているが、周辺校は2, 3の部活動である。

少子化に伴い、野球部やバレー部が複数校の中学校と合同チームによる活動を行い、今年度から拠点校型部活動もスタートさせた。

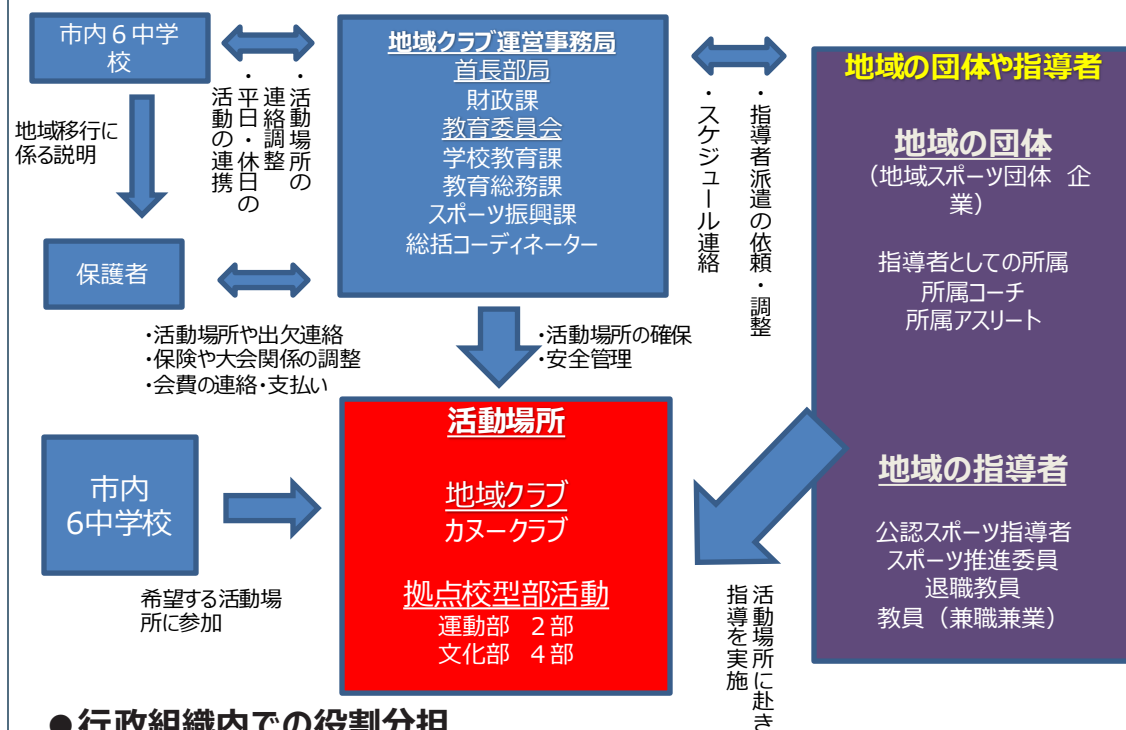
昨今の出生数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとらわれない「身体づくり」を主体とした活動を第一に進め、同時に教職員の働き方改革の推進を目標とし地域移行を進める。

また、各関係団体と協議を重ね、アンケートなどを通じて生徒のニーズを適宜把握しつつ、新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法等を検討し、実行する。その際、総括コーディネーターが核となり、各種団体・検討委員会・総合型地域スポーツクラブと円滑な連携を図っていく。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	第1回事務局会開催
令和6年5月	第1回検討委員会開催
令和6年5月	部活動指導員講習会開催
令和6年9月	地域クラブ活動スタート 地域クラブ指導員講習会開催
令和6年10月	第2回事務局会開催
令和6年10月	第2回検討委員会開催
令和7年2月	第3回事務局会開催
令和7年3月	第3回検討委員会開催



◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・スポーツ振興課…中学生の地域スポーツ活動の環境整備
- ・教育総務課…中学生の地域文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・財政課…予算措置、ふるさと納税の検討

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	6 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0 クラブ（0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾に （新）を付ける	実施回数	実施時間 帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	大会参加方法
ぶんごたかだか ヌークラブ	総合型地 域 スポー ツ クラブ	カヌー競技	月 1 5 回程度	平日 夕刻 休日 午前	中1 1人 中2 3人 中3 1人	年中	市内 カヌー 競技場	4 人	3 人 （内、兼務 0 人）	協会主催 大会

③その他、体験会やイベント等の開催実績

小学生カヌー体験教室

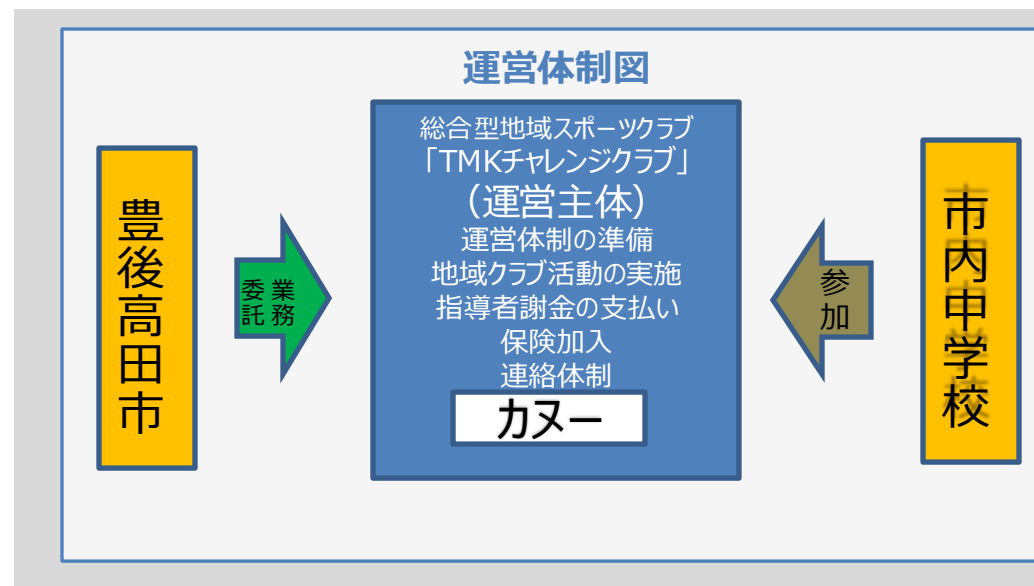
2.実証内容と成果

主な取組例

●ぶんどたかだカヌークラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	カヌー
運営団体名	総合型地域スポーツクラブ NPO法人「TMKチャレンジクラブ」 (以下 TMKチャレンジクラブ)
期間と日数	カヌー：9月1日～3月31日 月15回程度
指導者の主な属性	市消防署員 会社員
活動場所	市内カヌー競技場
主な移動手段	自転車 保護者送迎
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

記入例：

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者 1名

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者 2名

役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○首長部局や教育委員会の中の地域スポーツ・文化振興担当部署や社会教育・生涯学習担当部署、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる協議会を設置し、アンケートなどを通じて生徒のニーズを適宜把握しつつ、新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法等を検討し、実行する。その際、総括コーディネーターが核となり、各種団体・検討委員会・TMKチャレンジクラブと円滑な連携を図っていく。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・総括コーディネーターが関係団体と連携をとり、地域クラブ活動の整理・地域指導者の確保（人材バンク）・実施母体「TMKチャレンジクラブ」の整備を進めることができた。
- ・3か月ごとにクラブ指導者、部活動指導員と連絡をとり、課題等のヒアリング・助言等を実施できた。
- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。

今後の課題と対応方針

- 持続可能かつ多様な地域クラブの運営の為、地域クラブ指導者の確保・指導者の報酬財源の確保をする
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

関係団体・分野との連携を強化するための組織づくりと、各団体・分野との連携体制や代表者との連絡体制を構築していった。

【委員会組織】

○部活動検討委員会

市教育委員会 総合型地域スポーツクラブ 中学校

○部活動等検討委員会

市教育委員会 総合型地域スポーツクラブ スポーツ少年団 中学校 小学校 高等学校 市保護者団体

○部活動等拡大検討委員会

首長部局 市教育委員会 総合型地域スポーツクラブ 中学校 小学校 高等学校

【各団体・分野との連携】

スポーツ協会・連盟 文化芸術協会・連盟 市公民館 スポーツ少年団 スポーツ団体 高等学校部活動
中体連 中文連 小・中校長会 市保護者団体 企業

今後の課題と対応方針

- ・委員会組織の各委員会では充実した検討会議が開催されたが、検討内容や今後の方向性等を市民に拡大周知するため、市ホームページ等で活用していきたい。
- ・各団体分野との連携はまだまだ不十分な面がある。指導者確保のためには不可欠事項である。継続的な連携をする必要がある。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

令和6年9月、既存の小学生・中学生対象のカヌークラブを中学生のみ対象の地域クラブ「ぶんごたかだカヌークラブ」として開設する。

活動の詳細

参加人数	5 人	指導者数	4 人
属性	総合型地域クラブ「TMKチャレンジクラブ」を母体		
具体的な内容	平日は16：30～ 2時間程度 休日は9：00～3時間程度 月15回程度活動する		
生徒の声	私はバスケットボールで中学県総体に出場したけど不完全燃焼のまま終えてしまいました。その思いを払拭するために新しくカヌー競技に挑戦しようと思いました。兄が高校のカヌー部に所属していたことも追い風になり、全国大会を舞台に活躍してみたいと強く思いました。クラブに入って暑い日も寒い日も練習する大変さがありますがどんどん上達していくことがとても嬉しく、高校でカヌーを続けるイメージも湧き頑張ろうと思います。		
関係者の声	● カヌー競技の普及につなげ、活躍できる選手の育成を期待したい。		
運営経費	運営費650,000円・・・市からの委託契約費 指導者への諸謝金は345,600円		

総 括

●総括

本市は国の方向性と市のリソースを踏まえ、一人一人のニーズに応じたスポーツ・文化芸術環境を整えるため、「できること」「できるところ」から 長期的視野で計画的に条件整備を進めることができた。令和8年度からすべての部活動が休日の地域移行できるよう今後も取組を進めていく。

○これまでの取り組み

- ・首長部局や教育委員会の中の地域スポーツ・文化振興担当部署や社会教育・生涯学習担当部署、学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ・文化芸術団体、学校、保護者等の関係者からなる協議会等を設置し、アンケートなどを通じて生徒のニーズを適宜把握しつつ、新たなスポーツ・文化芸術環境の整備方法等を検討した。
- ・総括コーディネーターが核となり、各種団体・検討委員会・総合型地域スポーツクラブ「TMKチャレンジクラブ」と円滑な連携を図った。
- ・持続可能かつ多様な地域クラブの運営の為、地域クラブ指導者の確保・指導者の報酬財源の確保を検討した。
- ・総括コーディネーターが関係団体と連携をとり、地域クラブ活動の整理・指導者の確保、実施母体の体制づくりの整備を系統的に行った。

【取組詳細】

- ①地域移行のための方針、ガイドラインを策定し、検討委員会を立ち上げ、会議の実施
- ②部活動に関係する団体の種類、指導者、参加者等の現状把握
- ③持続可能な部活動等の地域移行の進め方の整理
- ④指導者の確保に向けた「中学校部活動の地域指導者に関する要綱」の作成、指導者の募集・登録・更新、説明会の実施
- ⑤地域移行を周知するチラシの配布
- ⑥保護者・児童生徒・教職員へのアンケート調査

○本年度の取り組み成果は

- ・地域スポーツクラブ（ぶんごたかだカヌークラブ）を設立できた。
- ・地域スポーツクラブを運営することで、財政面、人材面、組織面、市としての体制づくりの検証を行うことができた。また、課題も明確になり、今後の計画に繋がる見通しを持つことができた。

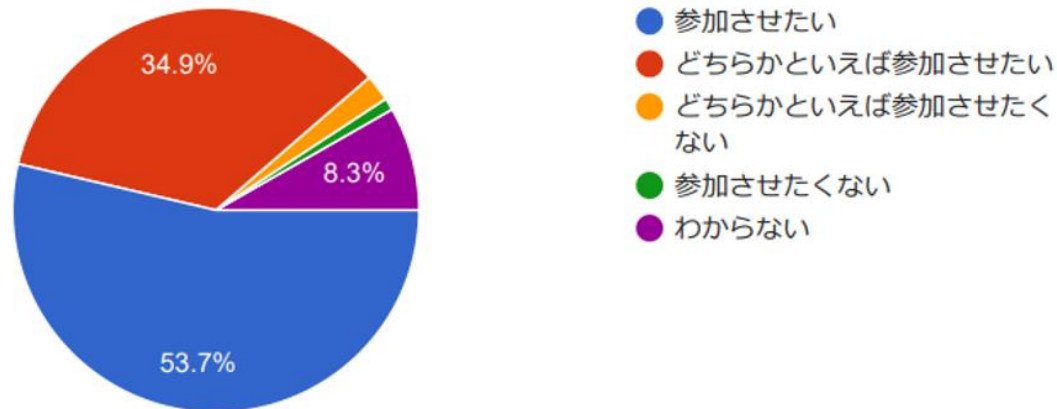
今後に向けた展望

R7年度は、2つの運動部活動の休日の地域クラブへの移行を予定している（柔道部、女子シフトテニス部）。今後も小規模校の生徒の活動を保障し、望ましい成長ができるような地域クラブの構築及び教職員の働き方改革について積極的・計画的に取組を進めたい。特に予算面や指導者の確保面については、様々な事例等を参考にしながら持続可能な体制づくりを模索していく。

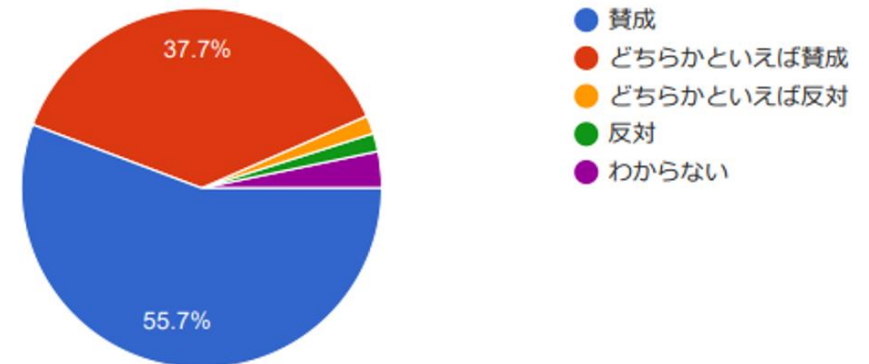
広報資料

「部活動地域移行」保護者アンケート

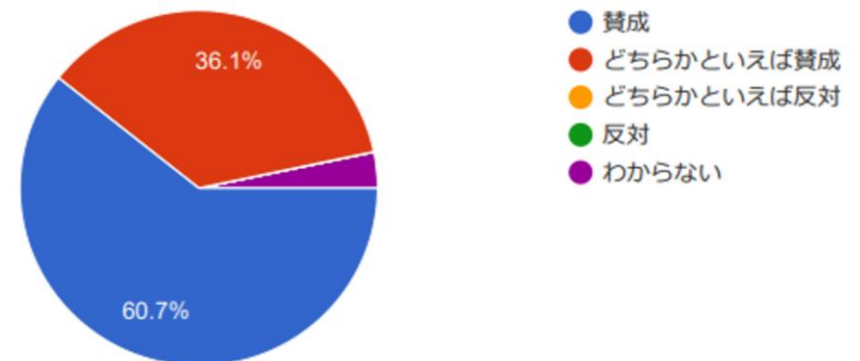
子どもを部活動に参加させることについて、どう思いますか。



部活動の地域移行について、どう思いますか。



子どもの部活動参加について、どう思いますか。



2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【カヌークラブ練習風景】



【小学生カヌー体験教室】

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和7年度
「R8年度の全部活の『地域クラブ化』への推進期間」
・拠点校部活動の増設
・教育委員会に「人材バンク」の設置
・指導者講習会・説明会の実施
・部活動検討委員会の実施

令和8年度
「全学校部活動の『地域クラブ化』の実現」
・教職員の「地域クラブ指導者」（兼職兼業）
・スポーツクラブの母体「ぶんごたかだチャレンジクラブ（R8年度より）」

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

大分県 豊後大野市

自治体名：大分県豊後大野市

担当課名：学校教育課

電話番号：0974-22-1001

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	603.14 km ²
人口	31,900 人
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	730 人
部活動数	52 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市の運動部活動は、陸上、水泳、バレーボール、バスケット、軟式野球、ソフトボール、柔道、剣道、ソフトテニス、卓球、バドミントンの11種目が活動している。

少子化に伴い、軟式野球、女子バレーボールが合同部活動、剣道、ソフトテニスが拠点校部活動となった。学校によっては、新規入部募集停止を検討している。

昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

改革推進期間で、子どものスポーツ環境の保

障及び平日及び休日の部活動を段階的に地域移行を進めることを目標とした。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要であり、同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内の指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。受皿についても早急に考えていかなければならない。

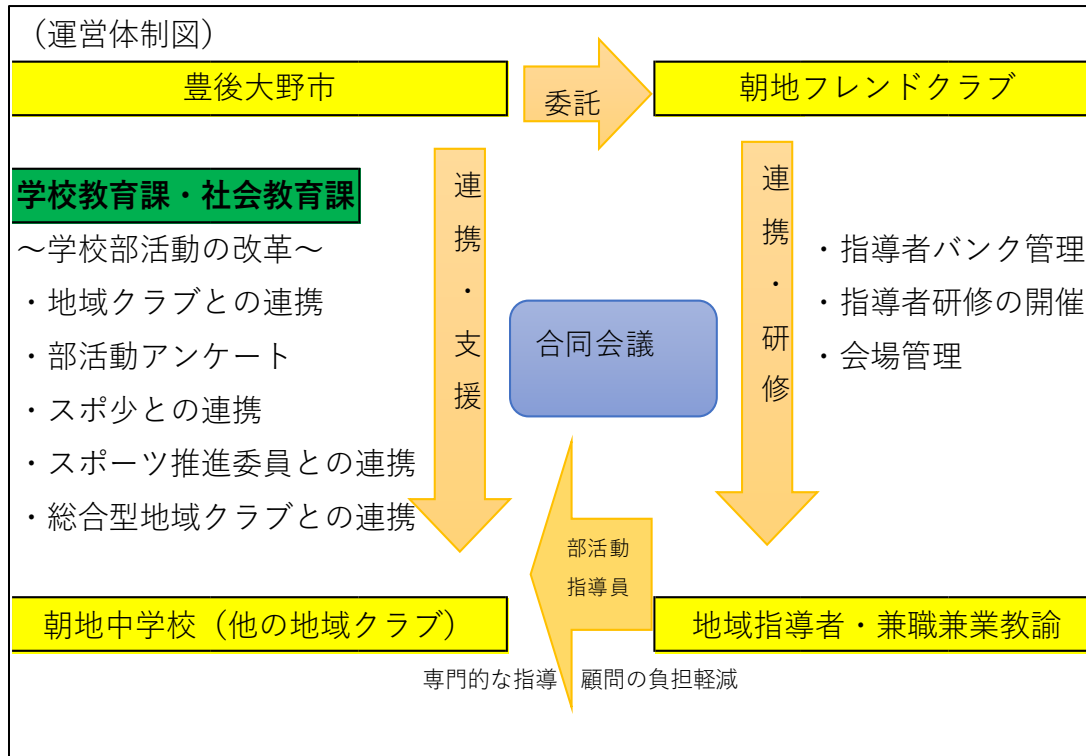
	2024年 (R6)	2025年 (R7)	2026年 (R8)	2027年 (R9)	2028年 (R10)	2029年 (R11)
生徒数 7～9年	730人	716人	691人	679人	665人	642人
生徒数 7～8年	487人	464人	456人	450人	438人	419人

現在、部活動生は60%（300人）程度。今後減少傾向が続く。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・社会教育課…スポーツ少年団、スポーツ環境整備

年間の事業スケジュール

令和6年度

- 4月 教職員、保護者への周知（受益者負担）
種目別検討会
指導者・顧問連絡会議
- 5月 第1回内部検討委員会
- 6月 第1回豊後大野市の子どものスポーツ環境の在り方を検討する協議会
- 7月 指導者・顧問連絡会議
- 8月 種目別検討会
- 9月 第2回内部検討委員会
- 10月 スポ少との協議会
児童生徒への地域移行説明会
- 11月 第2回豊後大野市の子どものスポーツ環境の在り方を検討する協議会
- 12月 指導者・顧問連絡会議
- 1月 種目別検討会
- 2月 第3回内部検討委員会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	8クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		7クラブ（7部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	30人	全体の運営スタッフ数	33人

②各クラブに関すること

クラブ名	種目	実施回数	実施時間帯	活動場所	指導者数	会費	大会参加方法
豊後大野ネクサス	軟式野球	水 土・日	15:30～18:00 8:30～13:00	犬飼総合G	3人	年会費 5,000円	地域クラブ
F C・S F I D A	サッカー	火・木 土・日・祝日	18:00～20:00 9:00～12:00	火：大野総合G 木：大原G 土日：大原G、サンスポ等	10人	月会費 2,500円 入会金 5,000円	地域クラブ
三重柔道会	柔道	月・水・金 土	18:00～20:00 15:00～17:00	三重町柔道場	6人	月会費 3,000円	地域クラブ
三重ガールズソフトボールクラブ（女子）	ソフトボール	火・木 土 or 日	17:00～18:00 8:30～12:30	三重中G 全天候型屋内練習場	2～3人	月会費2,000円	地域クラブ
BOST Jr. （女子）	ソフトテニス	水・金 土・日	19:00～21:00 9:00～12:00	サンスポーツランド	2～4人	入会費3,000円 月会費4,000円	2025年より 地域クラブ
朝地フレンドクラブ	剣道 卓球 バレーボール 軟式野球	月・火・木 火・土 火・木 月・火・木・金・土	18:00～19:30 18:00～、9:00～ 17:30～20:00 状況により変動	朝地小中武道場 朝地小中体育館 朝地体育館 朝地小中・緒方中・清川中	2人 2人 2人 1～2人	年会費2,800円	中体連：部活動 その他：部活動 or 地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

・12月 ネクサス体験会 ・3月 朝地フレンド体験会

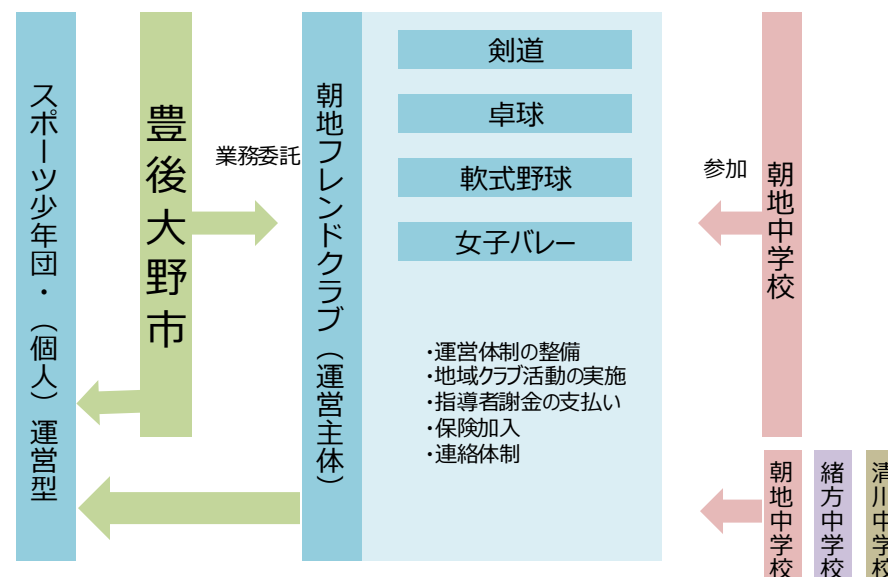
2.実証内容と成果

主な取組例

●朝地フレンドクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、野球、卓球、女子バレー
運営団体名	朝地フレンドクラブ
期間と日数	野球：4月1日～3月31日 月4回程度 剣道：4月1日～3月31日 週3回程度
指導者の主な属性	兼職兼業教員、地域指導者
活動場所	中学校、朝地体育館
主な移動手段	徒歩、スクールバス、タクシー
1人あたりの参加会費等（年額）	2,800円＋種目別実費
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携

●総括コーディネーター 1名

役割：会計業務。予算の執行。

●運営補助者 1名

役割：関係機関との連絡・連携、調査物

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 統括コーディネーターを1名配置し、関係団体・市区町村との連絡調整・会計等を行う。
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
 - ・スポ少への周知、要請
 - ・公的支援（財政的支援、公共施設の優先利用、使用料減免等）の対象とする地域スポーツクラブ活動の要件や基準等を明確化する。
 - ・市が認定制度を設けて、地域クラブ活動を認定する。

取組の成果

- 統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 指導者・顧問連携会議を年4回行い、情報共有や活動していくでの困り等を共有し改善を図ることができた。また、顧問からは、全員から働き方改革に繋がったという回答を得た。
- スポーツ少年団や総合型スポーツクラブへの周知を行い、よりよい方向性について議論することができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・学校、保護者、指導者等のアンケートを行い、課題の整理・改善を行った。
- ・協議会や県の会議等に参加し、また関係団体との連携に努めた。

今後の課題と対応方針

- 運営体制の整備について、より具体的に検討していく。
- 人材の確保について組織体制の整備を行う。
- 保護者への具体的な周知・理解を得る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○まだ、地域移行できていない部活動については、県に設置されている人材バンクを活用し、指導者を確保する予定。

○県主催の運動部活動指導者講習会への参加。

○地域内のスポーツ少年団指導者研修会への参加。

人材バンクの人数

0名（これから募集）

人材バンクの年齢構成

10代	0名
20代	0名
30代	0名
40代	0名
50代	0名
60代以上	0名

募集予定の種目

陸上
バレーボール
バスケット
軟式野球
剣道
卓球

資格有無

・野球：公認コーチ 1 又は3。
B F J 公認野球指導者基礎 I

・バレーボール：J S P O 公認指導者資格

・卓球：日本スポーツ協会公認の「コーチ 1」以上の資格

取組の成果

○3月に、パンフレットの掲示及び地域に周知のため、現在の指導者バンクの人数は0人。今後、人数・スカウト方法・審査内容について検討。

○地域クラブの指導者に対して、県主催の運動部活動指導者講習会への参加を依頼した。

○各種スポーツ少年団指導者研修会、県スポーツ協会がバナンス研修会のいずれかに必ず参加。

○スポーツ協会、総合型地域クラブ、地域関係者を通じて指導者についての相談を行うことができた。

○顧問とクラブ指導者の連携会議を実施した。

<講習会>

- 運動部活動指導者講習会（県教委）
- 地域内スポーツ少年団指導者・スタッフ研修会（県スポーツ協会）
- 大分県スポーツ協会がバナンス研修会
- 大分県スポーツ少年団指導者・スタッフ研修会（県スポーツ協会・県スポーツ少年団）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 学校と連携して進めていくため、中学校校長会やPTA連合会等において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。
- 総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団関係者との連携に関する取り組み。
- タクシー協会と連携し、生徒の送迎を行う。

取組の成果

- 中学校校長会やPTA連合会等への説明会を実施し、学校の協力を求めることで、市内小学5年6年生、中学校1年生の全ての生徒に地域移行についての説明会を開催することができた。
- スポーツ少年団関係者に対しての周知や情報交換を行うことができた。
- 活動場所の減免について、社会教育課や公民館との会議を行い、週1回程度の場所の確保と減免の実施ができた。

<児童・生徒への説明会>

- 10月2日 清川小中、緒方中
- 10月3日 朝地小中
- 10月8日 新田小、千歳小中
- 10月11日 大野小中
- 10月17日 犬飼小中
- 10月25日 緒方小
- 10月28日 三重第一小
- 10月29日 菅尾小
- 10月30日 三重東小
- 11月1日 三重中、百枝小

タクシーの運行実績

- ・日数 月4回程度
- ・利用者数 約30人
- ・運行経路 所属学校～練習会場の学校

タクシーの運航経費

- ・利用料
往復5,600円～13,400円

今後の課題と対応方針

- 競技団体や総合型地域スポーツクラブ等の多様な団体に参画してもらう必要があるため、更なる連携強化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 朝地・清川・緒方のエリア、大野・千歳・犬飼のエリア、三重のエリアの3つを基本的なエリアとして設定。
- 児童・生徒アンケートを基に、R8年度の完全地域移行に向けて、12種目+αの種目を検討。
- 種目によっては、他市教育委員会との連携を実施。

各自治体の役割

- 豊後大野市教育委員会
 - ・総合型地域スポーツクラブ運営型及びスポーツ少年団運営型との調整・協議
 - ・地域クラブ運営、予算管理委託
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理委託

移動手段

- 基本的に保護者による移動
- 移行の準備期間としての合同部活動の移動は、タクシーでの輸送を行う。

事務局運営の方法

- スポーツ少年団との連絡調整は、社会教育課と連携して行う。
- 3つのエリアについて、総合型地域クラブとの協議を検討

取組の成果

- 地域クラブに参加した生徒は、69名であったが、そのうち、6名の生徒が活動エリア外の参加であり、参加したい全ての生徒を受け入れた。
- 他市と連携し、県中体連大会への参加ができた。

<地域クラブ人数>				
種目	チーム名	市内生徒数	市外生徒数	計
軟式野球	ネクサス	17		17
ソフトボール	三重ガールズ ソフトボールクラブ	9		9
柔道	三重柔道会	5		5
サッカー	FCスフィータ	9	6	15
野球・卓球 ・剣道・バレー	朝地フレンドクラブ (総合型)	23		23
計		63	6	69

今後の課題と対応方針

- 移行に取り組む種目数を段階的に増やし、令和8年度秋までに域内の全ての運動部活動を地域クラブ活動へ移行する。
- 指導者の確保が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○小5～中1の児童生徒に対し
 「アンケート調査」を実施し、生
 徒ニーズの把握に努めた。

小学校5年・6年生のアンケート結果

参加人数	494人	実施月	10月
どんな活動に入っているか	①スポーツ活動 60% ②文化的活動 26% ③学習塾 18% ④なし 26%		
地域移行したら地域クラブに入りたい？	①入りたい 85% ②入りたくない 15%		
「地域クラブに期待すること」	①中学校生活を楽しく豊かにしたい 60% ②体力や技術の向上をめざしたい 52% ③友人をつくりたい 48% ④スポーツや文化活動を楽しみたい 47% ⑤試合に勝つ喜びを味わいたい 43%		
入りたい種目上位	① バレーボール ② 軟式野球 ③ バドミントン ④ 卓球 ⑤ ダンス ⑥ バスケット ⑦ ソフトテニス ⑧ サッカー ⑨ 吹奏楽 ⑩ 水泳 ⑪ 剣道 ⑫ 陸上		
「地域クラブ」に入りたくない理由	① 他にやりたいことがあり時間がない 33% ② やりたいことがない 30% ③ 運動・文化活動が苦手でやりたくない 21% ④ 勉強に集中したい 17%		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○平日の練習について希望をとると、「平日4日の練習」と「平日3日の練習」では、少しだが平日3日の方が希望が多かった。
 ○休日の練習においても、土日のどちらか1日という声が多かった。

中学1年生のアンケート結果

参加人数	215人	実施月	10月
どんな活動に入っているか	①学校部活動 64% ③上記以外の地域スポーツ活動 21% ⑤学習塾 18%		②地域クラブ 20% ④文化的活動 15% ⑥なし 11%
「地域クラブに期待すること」	①中学校生活を楽しく豊かにしたい 65% ②体力や技術の向上をめざしたい 50% ③スポーツや文化活動を楽しみたい 47% ④試合に勝つ喜びを味わいたい 45% ⑤友人をつくりたい 45%		

今後の課題と対応方針

○地域クラブ化へ向けて、来年度の平日部活動を週3日とすることを検討する。
 ○入りたい種目上位12の種目について、地域クラブ化へと移行するよう検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支を参考に、適切な受益者負担額や謝金単価について検討し、また公的資金について検証。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

○初期費用なし

■ランニングコストの分析

- | | |
|------------------|------------------|
| ○会場借料（減免措置） | ○人件費（596千円） |
| ○指導者謝金（1,991千円） | ○指導者旅費（164千円） |
| ○運営スタッフ謝金（232千円） | ○消耗品費（76千円） |
| ○生徒輸送支援費（364千円） | ○大会参加費、登録費（市費補助） |
| ○会議謝金（33千円） | |

受益者負担額の試算

指導者謝金
1,600円×1,244h
指導者旅費
161,660円
会議謝金
1,000円×33h

生徒輸送費等を除いて
約2,200千円

- ・減免や市補助金等の運用により負担を減らす。
- ・事務局運営費、人件費は、国費や自主財源とする。
- ・保険料は個人負担。
- ・消耗品等は、種目毎臨時徴収とする。
- ・謝金等合計を生徒数及び12月で割る。生徒数を仮数40人としたとき、
1人あたり月4,600円の試算

今後の課題

- 指導者謝金関係に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時にあやうい。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。
- 少しでも負担を少なくするために、指導者との協議や、スポンサー関係での補助額の検討も行っていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○今後、保護者等に負担が見込まれる受益者負担を低廉な額とすることや、生徒の安全を確保するため、学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

○スポーツ少年団への加入を促し、利用施設の減免ができるように調整した。

取組の成果

○ 関係する中学校や社会教育課等との協議を行い、学校体育施設及び社会教育施設を利用した活動となった。

○ 調整のための会議を行い、極力負担がないように会場の調整を行った。

<地域クラブ活動場所>				
種目	チーム名	学校施設	社会教育施設	負担
軟式野球	ネクサス		○	一部負担
ソフトボール	三重ガールズ ソフトボールクラブ	○	○	なし
柔道	三重柔道会		○	なし
サッカー	F C スフィード		○	なし
野球・卓球 ・剣道・バレー	朝地フレンドクラブ (総合型)	○	○	なし

今後の課題と対応方針

○実証事業の活動日に部活動が行われている学校も見られることから、引き続き、学校や教育委員会に部活動と実証事業の活動が競合しないよう、事業趣旨の理解等を求める。

○今後、部活動の地域移行に伴い、地域クラブ活動の拠点となる学校体育施設を利用しやすい環境を整えるため、学校体育施設の利用調整に係る業務を運営主体に委託する方向で進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○改革推進期間後を見据えた取組を推進する観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施した。

取組の成果

○休日及び平日の全ての学校運動部活動を地域クラブ活動に移行。

○休日に加えて、平日の一部の学校運動部活動を地域クラブ活動に移行（例：平日の週3日は学校部活動、平日の週1日と休日の週1日は地域クラブ活動）。

活動の曜日

<地域クラブ活動>

種目	チーム名	月	火	水	木	金	土	日
軟式野球	ネクサス			○			○	○
ソフトボール	三重ガールズ ソフトボールクラブ		○		○		○	
柔道	三重柔道会	○		○		○	○	
サッカー	F C スフィード		○		○		○	○
野球・卓球 ・剣道・バレー	朝地フレンドクラブ (総合型)	種目により数日のみ部活動						

今後の課題と対応方針

○現、地域クラブは平日も指導可能な指導者が確保できているが、今後は指導者の確保が地域クラブ化への課題となる。人材バンクの活用を検討。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○今年度、朝地フレンドクラブ（総合型地域スポーツクラブ運営型）において、地域移行の実証研究を行ってきた。朝地小中学校及び緒方中、清川中と連携し、剣道、卓球、バレーボール、軟式野球の4つの部活動で地域クラブでの活動を実施した。平日及び休日に、地域クラブの指導者が活動の可能な時間帯で実施した。

○一方、各種協議会やスポーツ少年団での会議にて、地域クラブ化への周知を行い、地域に応じて可能な種目からの地域クラブ化を目指した。R 6 年度は、野球「ネクサス」、サッカー「スフィード」、柔道「三重柔道会」が地域クラブとしてスタートした。夏には、ソフトボール「三重ガールズソフトボール部」が地域クラブとなり、年度末にかけて何度も協議を行いながら、R 7 年度から、女子ソフトテニス「B O S T Jr.」がスタートする。

○地域移行を見据えての、合同部活動が野球・女子バレーボール、拠点校部活動が剣道・ソフトテニスと実施できている。

●成果の評価

○少しずつではあるが、休日及び平日の地域クラブ化への周知が広まってきている。秋には、小学校 5 年生～中学校 1 年生に向けての説明会を、全小中学校で実施することができた。

○地域クラブ化できた種目においては、練習場所や減免等の課題があり定期的な協議を行いながら対応することができた。

○地域クラブ化により、顧問としての負担軽減ができている。専門の指導者から指導を受けることができると評価を受けている。

○学校部活動も地域移行に向けて放課後の時間帯の一斉短縮を行うなど変化がある。

●今後に向けて

○実証研究においては、持続的に運営できるように受益者負担についての周知及び理解を得ることが必要である。そのためにも地域クラブの規模を拡大し、部員数が増加するようにしたい。

○種目毎に協議を行い、できる種目から地域クラブ化を進めていく。

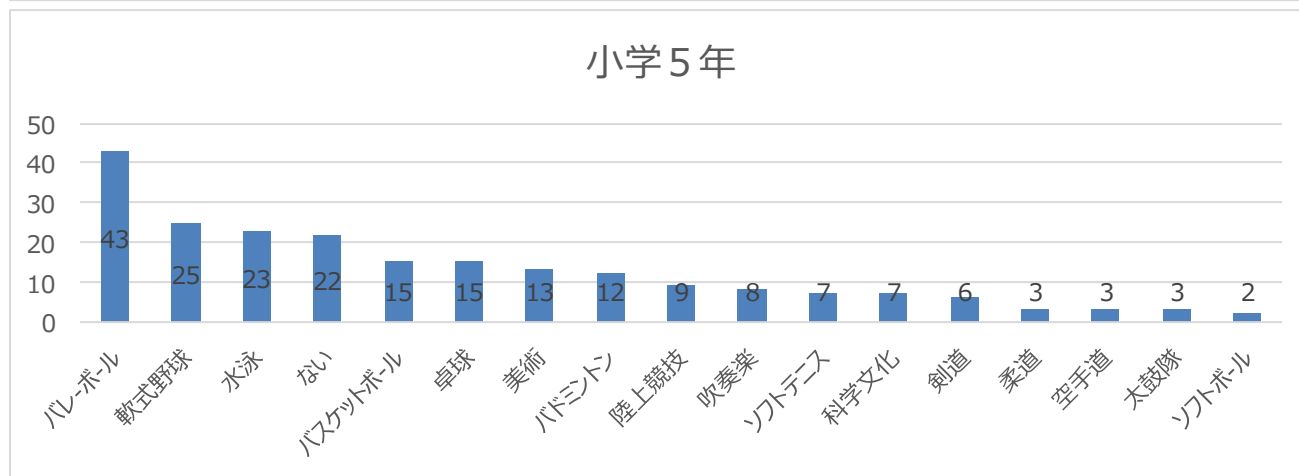
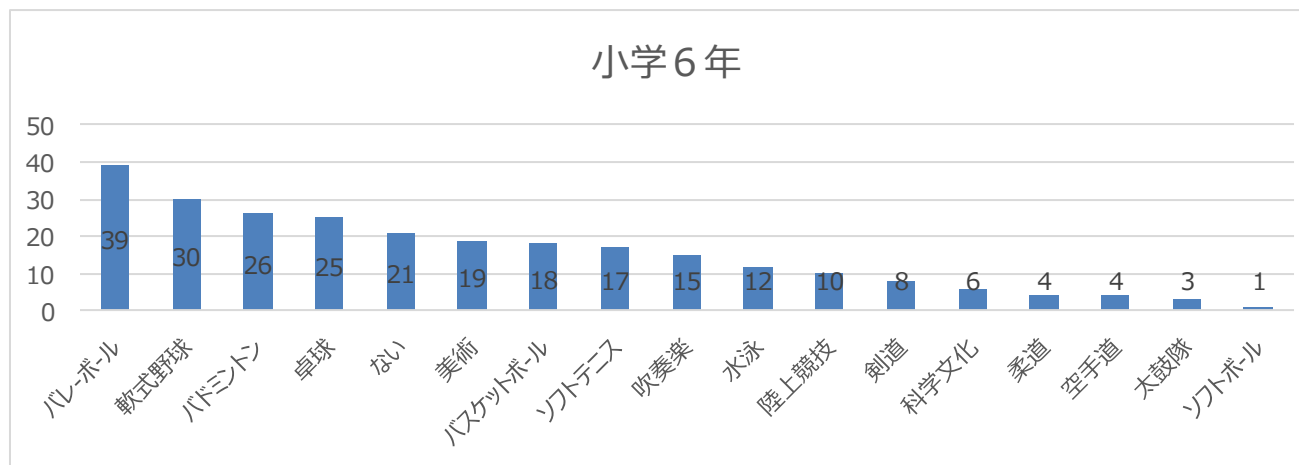
○地域クラブ化できていない種目においても、指導者の確保と受皿の確保が必要となってくる。

2.実証内容と成果②

アンケート結果

●アンケート結果

Q.「入っている」「入りたい」スポーツ・文化活動は何ですか？



●アンケート結果から

・選択肢は、現存する部活動だったため、部活動にない種目については記述式でのアンケート調査を行った。

<記述>

5年	サッカー	19人
	ダンス	5人
6年	サッカー	20人
	ダンス	5人

<来年度の方針>

子どもの希望、上位12について、地域クラブ化を検討していく。
(12の種目は前述)

アンケート結果・広報資料

クラブ体験のちらし



体験会スケジュール

12月 7日(土) 8日(日)
13:00~17:00 14:00~17:00
14日(土) 15日(日) 21日(土)
13:00~17:00 14:00~17:00 13:00~16:00

場所：犬飼総合グラウンド

※雨天時は中止です。当日9:00に判断する予定です。
参加者の中で判断がつきにくい場合はお問い合わせください。

対 象
犬飼・大野・千歳小中学校6年生
(男女不問・未経験者も大歓迎)



クラブの合同練習に合わせた体験会のご案内です。見学だけでもOK。時間の制約もありませんので、都合の良い時間に来て頂いて頂いてOKです。お気軽にお越しください。なお当日は、保険処理の関係で、受付名簿へのご記入をお願いしますので、予めご了承下さい。よろしくお願いいたします。

当日はグローブの他、水筒や帽子の準備をお願いします。グローブがない場合は貸し出しますので、お気軽にお申し付けください。

【生徒への参加啓発チラシ】

2025年度からの地域クラブ



BOST Jr. 第1期生として入部してみませんか？

【普及コース】(6月~)

金曜日(毎週) 19:00~21:00 サンスポートランド
日曜日(隔週) 12:00~14:00 サンスポートランド
※8月前に希望者がいれば段階的に開始予定

会費：月3,000円(入会金別)

※コース決定についてはご相談ください
※【普及コース】は新しく増設する部門になるので、練習の曜日・時間に変更になることがあります
※新人戦の参加を目指して練習試合や合宿も計画中です

【強化コース】

水曜日(毎週) 19:00~21:00 サンスポートランド
土曜日(毎週) 18:00~20:00 サンスポートランド
日曜日(毎週) 14:00~17:00 サンスポートランド
(季節により変動します)

会費：月4,000円(入会金別)

BOST clubは社会人や学生のための地域密着のソフトテニスクラブチームです
今年度より試合(中体連・新人戦)に地域クラブが参加できるようになりました
そのためBOST clubでは、中学生の活動の場を広げる目的で、新しくジュニア部門を作りました
社会人との交流を深め競技を楽しみ、人間関係の構築や自己肯定感を高めるための学びの場としても最適です
部活動では出来ない練習や体験を予定しています
入部直後はラケットの貸し出しや道具選びのアドバイスもします
中学校の部活動に入っている人でも、入っていない人でも大歓迎です
部活の完全地域移行前に早めにBOST Jr.に入部しておきましょう

見学OKです
毎週水曜日19:00~21:00
恵藤建設サンスポートランド D・E・Fコート
豊後大野市三重町百枝1086番地273

豊後大野ソフトテニスクラブ
ボストクラブ
BOST club

お問い合わせ
BOST Jr.事務局
工藤 工藤
090-4986-8586

【今年度の募集案内】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【野球：ネクサス対三重中】

【剣道：中体連個人戦】



2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【野球：中体連大会】



【卓球：中体連】



【女子バレー：中体連大会】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、スポーツ少年団、スポーツ協会、競技団体
市教委、総括コーディネーター

経過・内容

令和3年の後半より、朝地中学校を調査研究校とし、総合型地域クラブ朝地フレンドクラブと連携し移行研究を始めた。

令和4年度より内部検討委員会を設置し、推進計画等を策定した。
令和5年度は、朝地フレンドクラブとの連携を維持しつつ、競技団体とコーディネーター、スポーツ少年団、スポーツ推進委員等で組織する協議会を設置し、地域クラブ化に向けての検討を進めた。

令和6年度は、朝地フレンドクラブの4競技、スポーツ少年団・個人運営型で4競技において地域クラブ化がスタートした。4月からは市内7中学校において部活動の終了時間の繰り上げ、地域クラブ活動へ移行する準備とした。10月には、小5から中1までの児童生徒に対しての地域クラブ移行説明会を行った。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、活動場所の予約や部室場所に対する指導者の負担が大きいことや、保護者の生徒輸送の負担が指摘された。内部検討委員会や課内会議で協議し、課題解決に努めた。

種目によっては指導者の不足が大きな課題として指摘されている。県の人材バンクの活用や総括コーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。中体連関係の申込みなどが完全移行後の課題となる。

今後の展開

令和8年9月からは、市内すべての中学校において、休日及び平日の部活動を地域クラブに移行する予定で進めていく。令和7年度は準備の1年間となる。保護者説明会等を重ねて周知していくとともに受皿団体の検討も早急に進めていく。持続可能な地域クラブ運営とするために、月会費負担について開始を検討していく。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

今後の学校部活動及び新たな地域クラブ活動について

愛媛県教育委員会 197 2月

基本方針 ①生徒の運動機会を保障します
②平日・休日 傾斜型の地域移行(R2年8月より完全移行)

地域の
スポーツクラブへ



～令和5年

令和7年

令和8年(新人チーム)～

(単体の)
部活動

合同部活動
(例:野球・バレー)

地域クラブ活動
(例:領地フレンド
・野球ネクスス)

拠点校部活動
(例:剣道、ソフトテニス)

スポーツ少年団

移行の
準備期間

新たな地域クラブ活動

総合型
地域スポーツクラブ
運営型

スポーツ少年団
(個人)運営型

地域
クラブ

○地域・学校の状況を踏まえ、それぞれの種目において最適な進め方を検討。

子どもの入りたい種目
上級12+αについて
市内に各種目1～2つ以上の
地域クラブ設置